新女界

第二巻　第十二號

明治四十三年十二月一日發行（毎月一回發行）
明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

新女界第貳卷第拾貳號目次

●先づ吾身を他人の位置に置け　安井哲
●力の宗教　海老名彈正
●小供に小使を持す可否と其注意　金森夫人　某夫人
●母が示しくれし人生　兵働秋郎
●「朧夜の月」　森田蘇泉
●十四年ぶりの旅路日記　海老名みや
●星を尋ねて（小女宗教歌劇）　淺田泰順
●支那料理の献立　片山幽吉
●冬の衛生實驗談　海老名みや
●湯臺叢話　谷津直秀
●摘草集（新聞雜誌瞥見）
●時事其折々
△暹羅皇帝の崩殂
△米國の總選擧
△現内閣の二問題
△清國の政局難
△南極探檢隊乘船「開南丸」の出帆
△文豪トルストイ伯
●随感
△も少し遠大の處に着眼せよ　安井哲
△夫婦同化の眞義　一記者
△多忙なる生活　一記者
●新刊紹介
●編輯局より

完全無缺頭髮用

人に接する時自らも不快、他人をも不快に感ぜしむるものは毛髮のふけと惡臭です、女髮結が屡々病に罹る源は此猛烈な惡臭の爲めに神心を煩ふからだと申します

此點に於て第一に御勸め致しますのは**千代田香油**であります本品は純粹の椿油を根本とし歐米流行の香料を配劑した佳品です

毛髮｛を漆黑ならしめ　ふけを防ぎ　くせを直し｝

芳香優秀で長時間を保ち香水の代用を爲し自ら心神を爽快ならしめます

特製七十錢　大瓶三十五錢　中瓶二十五錢　小瓶十七錢

試用見本は郵券代用にて御申込次第御送附いたします

スワン石鹼

純白で湯水に浮き價安くして品の善いスワン石鹼は到る處の小間物、化粧品、藥舗にあり

スワン石鹼日本一手販賣　東京馬喰町四丁目　**山岸三之助**　電話浪三七九三　振替口座一九九七八

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人世界

十二月一日發行　第拾四號

一冊　拾五錢　郵税一錢五厘　半年分郵税共一圓五錢

◎内助の妻君とは斯の如き人　伯爵　林董

◎二萬圓の借金を返した良人の苦心　梅博士夫人

◎朝鮮貴族の家庭を訪うて感じた事　伊藤富貴子

▼手輕で味よき大根料理　弦齋夫人

◎結婚前の理想と結婚後の實際　佐佐木夫人

◎京都女學生の豆拾ひ競爭　京都府立第一高女校長　河原一郎

◎歳暮の贈答品は如何にすべきか　村井弦齋

◎もし夜中に強盗が入つたら　赤坂警察署長警視　本堂平四郎

◎出ぬ乳を揉み出す女醫者にかかる記　伊藤きと子

▲小兒病の豫防法　加藤博士

◎髪も衣裳も日本婦人の眞似する佛國婦人　茂木習古

◎十五年間一粒も米飯を食はぬ　安藤耐子

◎私の眼に映つた日本　朝鮮觀光團　伯爵李夫人

東京京橋南紺屋町　實業之日本社　（郵便振替貯金口座三二六番）

羽仁もと子編

家計簿

明治四十四年用

定價四十錢　郵税八錢

一、この家計簿を用ゐてゐると、豫算超過の心配がなく、ひとりでに貯金が出來ます。

一、この家計簿を用ゐてゐると、月末にも年末にも殆ど算盤を手にすることなしに一家の生計費の內譯までが、一目で分るやうになります。

一、家庭に於ける日々の支出を、この家計簿に記すのは、恰も翌日の適當なる支出額の暗示を受くるやうなものであります。

一、どんなに經濟の下手な人でも、この家計簿を用ゐてゐると、知らず〱一家の財政を健全にすることが出來ます。

一、記入の仕方は極々簡易で、普通の小遣帳と同樣、誰れにでも氣樂につけられます。

書名「家計簿」並に羽仁もと子編の文字御に注意下され度候。

類似の物あり

羽仁もと子編

主婦日記

明治四十四年用

定價四十錢　郵税六錢

種々の改良を加へ、又新に主婦時間表、衣類家具買入豫定がき、贈答おぼえ、消耗品統計、家族健康表等を添ゆ。

「婦人之友」迎年準備號

十二月一日發行

精神的に物質的に心安く年末に處し、幸福なる新年を迎へんとする方々の一讀を望む。

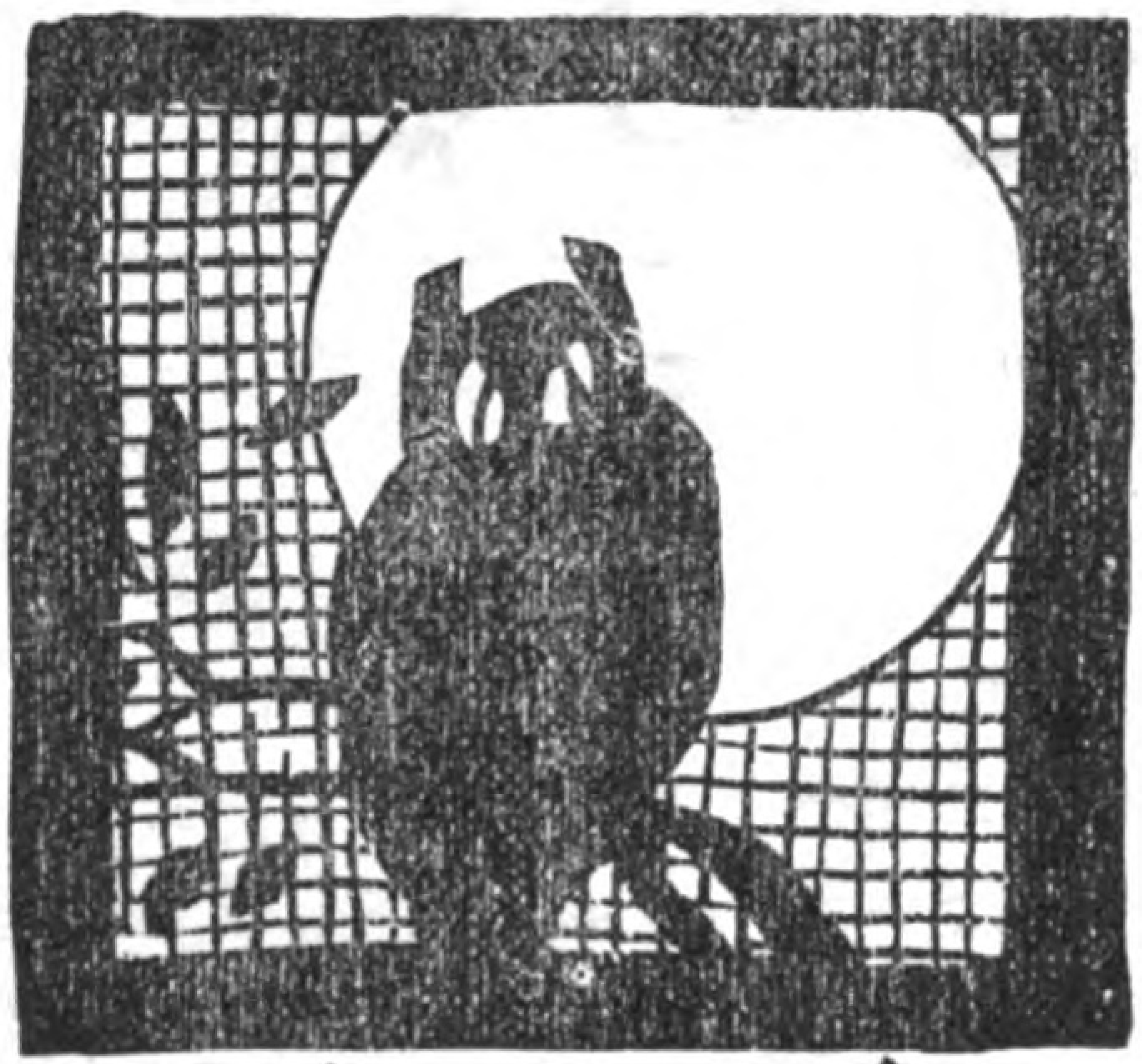
發行所　東京小石川雜司ヶ谷町　振替東京壹壹六〇〇番　婦人之友社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

クリスマスに最も好き贈物

（新刊）

竹久夢二著



繪物語 サヨナラ

（定價金七拾錢●送料六錢●三五版二百頁餘
●装幀美●三色版及繪畫拾數葉挿入）

樂しい、悲しい、しかも懷しい少年時代の物語を書いたのがこの本です。
少女は、人形にさへ別れを惜しむだ。少年は泣きながらも口笛を吹いて居た。
小鳥のよふに自由に美しい歌をかいたのがこの本です。
一篇の物語に、きつと三色版や寫眞版のキレイな繪がついてゐる。
この可愛いゝ本を、別れゆく少年少女諸君に贈りたい。

發行所 東京麹町二丁目二番地
振替東京二〇九一四番
洛陽堂

大賣捌 東京堂〇上田屋〇東海堂〇至誠堂〇北隆館〇文榮閣〇六合館〇大阪盛文館〇

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

文學博士　井上哲次郎先生序
廣島高師教授　ドクトル、オブ、フィロソフィー　文學士　三澤糾氏著

時代と教育

定價　九拾錢
逓税　六　錢

東京銀座　振五五三　警醒社書店

一面に於ては、是れ、眞面目に彼れに學ばんとて出で立ちたる一日本學生の見たる歐米文明の印象記也、他の一面に於ては、是れ、獨立の一隻眼を有する新歸朝の一教育學者が現代の日本に對して下したる觀察也、評論也、而してまた献策也、著者嚮に『國民性と教育方針』と題する一書を著はし、江湖の注目毀譽とを惹けり、本書は正にその前篇と見做すべきもの。而して著者の國民教育觀は彼れを經とし此れを緯として成る、彼れを繙きしものは又た此れを讀まざるべからず。

天篇、時代——亡びんとする日本、支那の覺醒と日本人の使命、日米紛爭の根本事實、黄白二大人種の衝突と日本の地位、生るべき新日本。地篇、教育——國民教育の根本問題、泰西教育界の趨勢、女子教育の方針、歐米に於ける婦人問題、米國教育界の一大問題、少年文學と圖書館、學校の社會的膨張、北米の社會的殖民事業、泰西に就いて學ばんとする上の注意。人篇、德道及宗教——過時代に於ける青年の覺悟、健全なる生活の理想、學術上より見たる酒の害、如何にして德育を有効ならしむべき、宗教評價の標準　歐米に於る宗教々育。以上を本書の目次とす

春ふかみ井手の川なみたちかへりみてこそゆかめ山吹の花。

（天氣　　）　四月十五日　土曜日　（寒暖　　）

豫記

往來

信書

發兌　東京口座。五五三　警醒社書店
本郷春木町二丁目　警醒社支店

（見本）

四十四年日記　吾家の歴史

吾家の歴史は我邦最初の日記帳にして、最も長き經驗により て最新式を採用せるものなり。體裁内容共に贅を省きて實を尙び、最も優美高尙なる而も最も重寶なる日記なり。

革製●一圓●　布製●五十錢●　郵稅●八錢●

感想

出入	摘要	円	出入	摘要	円

囚人を斬つて以て試めし人膽を賣買するを禁ず　（明治二年）

▲無きが如くに見えて實は最も確實なる實在者は神なり。

第貳卷第拾貳號

明月の玉にもきずなき事能はず、過なき人、なんぞ世にあらんや、今の人、ひとの小過あるをみて其人を卑しみ、すこし短なる所あれば、長ずる處あれど云ひ落し、捨てゝ取用ず、愚なるかな、聖人は過なし、聖人を以て人にのぞまば世に人なかる可し、人の譏をせめて我があやまちを知らざるは愚なるかな、是吾身を顧みざればなり、もし我を顧みば我身にも過多かるべし、我身をかへりみて我過をせめなば、人の過をとがむるにはいとまなかるべし、我田の草の多きをば、そのまゝおきて取らず、人の田をくさぎるに、古人もたとへたり。(大和俗訓)

先づ吾身を他人の位置に置け

安井哲

他人を明に了解するのは難事であります。如何に打解けた間柄でも、互の身の上や心の狀態を、盡く知り合ふ譯にはまゐりません。然るに吾々は自分を以て他人を推し、自分の觀察した事、想像した事を、恰も誤りのない事實の如くに判斷する傾を有つて居ります。之れは自分が他人から誤つて解釋せられた時に　經驗し得る事實であります。虛心平氣で他人が自分を評するのを聽いて御覽なさい。時には能くもかく自分勝手な判斷を、大膽に其人の前でいはれる者よと思ふ事がありませう。又雜誌や新聞に掲げてある友人の記事を讀んで御覽なさい。吾熟知して居る事實が、如何に大なる誤解となつて傳へられて居るかに、驚かれるで御座せいまう。併し批評者は吾判斷を正しいと信じて居るので、さもなくば之れを幾多の公衆に示す勇氣はありますまい。卽若し友人に對する自分の觀察に誤りはあるまいかと懸念すれば、直に其當人に正すでありませうし、又記者が或人に對する記事の眞僞を疑へば、先其人に就いて、親しく之れを正して後に、公衆に示すでありませう。かゝる事實から推して見ますと、人間は實に或意味に於て自信の強い者で、其事實よりも、寧吾心に影じた印象を以て、強て事實と認める傾を有つて居る者であります。之れが卽ち他人を了解する事の困難な理由で、自分も亦他人に對して、之れを同樣の誤つた解釋を致して居るものでありませう。

然るに、人事は複雜で、他人に起つた出來事全部を、明かに了解する事は不可能であります。假令何の秘密もない親子や夫婦の間にでも、恐くは互に打明けない或事實があるであらうと思ひます。例ば公務に關する出來事の如きは、假令親子婦人の間でも、互に打明けられぬ事が多いで御座いませう。其故に吾々は大抵其關係事實全體を熟知せずに、唯外部に現はれた一部分だけで、其事實全部を推測するのが普通で、之れは多くの場合誤解に終ります。

そこで自分を誤つて解釋せらるゝ事は、善解と惡解とに論なく　不愉快である事は、誰も實驗する所で、例ば自分に缺點多きを耻ぢて居るのに、他人が唯折々表面に現はれる言行のみに依つて、恰も有德者であるかの如くに、自分を判斷し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たり、又は吾淺學を歎いて居る場合に、恰も深い學問でもあるかの如くに解釋せられる場合の苦痛は、實に堪へ得られぬ者であります。又一方に於て、自身すら知らぬ事を、恰も事實の如くに思ひ誤られて、非常な迷惑を受ける樣な場合もあります。かくの如くに吾身の實驗から、他人を想ひやります時には、吾も亦幾多の他人に不知不識苦痛を與へて居るのであらうと、想像され、誠に罪深く感せざるを得ません。其故に吾々が他人を判する前には、先づ其人の位置に自分を置いて、考ふべきで、かくすれば、同情を以て他人に對しますから、幾分か他人を惡解する事を免れませう。故に將來一商店を支配せんとする者は、先づ他家に召使はれて、小僧の苦勞を實驗し、又他日他人を支配せんとする者が、一度は他人に服從する經驗を有つといふ事は、實に必要な事であります。かく我々は自己を本位にする傾を有つて居ますから、無慈悲冷淡な心狀で、他人に接し易く、自分は少しく働けば疲れるが、召使は固り自分も違ひ、育ち方も異るから、我よりは幾倍も働き得る者と、自分勝手に豫想して、不知不識過度の勞力を强いたり、從者は又主人の仕事が、吾仕事と性質を異にする事をも知らず、自分にのみ多量の勞働を强いらるゝ如くに、不滿を抱くのは、普通でありますが、若之れが極端になりますと、終には教育者と被教育者、主人と從者、長官と部下、又は朋友相互の間に不絶不滿を感じさせ、次第に同情の消ゆ失せる樣になります。

要するに、我々は缺點多き自己を、善人視し、萬能視して、他人は却つて、不完全なる者の如く豫想する傾きを有つて居ますから、他人を正當に解釋する事が出來難くなり、常に冷淡無慈悲の態度で、他人に對する樣になります。其故に自分の經驗から推して、他人の事を想ひやり、自分は寧他人の惡解に甘んじて、他人には我より常に溫情を注ぎ、其位置境遇に吾身を置いて、出來得るだけ寬大な解釋を與へるといふ事は、獨り他人の幸福のみでなく、吾過失を減じ溫情を養成さるのに缺くべからざる事であります。

人のほめそしりを聞事よく察す可し　譽る人そしる人、智なくして人の善惡と事の是非とを知らず、其上私ありてわが氣に合へるをほめ氣に合ざるをそしれば、善惡亂れて人を迷はす、斯る人のほめそしりは必信ずべからず、これを信ずればあやまりて是を非とし惡を善とし、咎なき人をうらみ、善人を遠ざけ　惡人を近くれば、其わざはひ甚し、人のほめそしりに迷ふべからず（貝原益軒）

講壇

力の宗教

海老名彈正

▽安心の土臺

昔より地震雷鳴火事は女子の最も恐れ嫌つたものであるが、これは女子ばかりでなく、男子も恐れたに違ない。この恐ろしき造化の力も觀やうによれば、怖いものは見たしといふものにて、中々興味がある。人は是等の出來事によつて造化の力を認むることを得る。造化の力は人の驚嘆するものである。驚嘆の情には亦一種の快感が含まれて居る。驚嘆の情には一種嵩崇の感が伴ふて來る。快感嵩崇、畏敬の情は人の心を勇壯活潑ならしむる。壯美の感は造化の力に觸れた時の感想である。故に觀やうによれば、地震雷鳴火事は人を畏縮せしめずして、雄大ならしむる。是れは男子のみならず、女子も亦同樣である。私は神鳴が轟ろくと癇癪がさがる。嵐が狂ふ、天地は呼喚び、百蟲は吠へ、木葉は飛散する、それに盆を覆へす強雨が撃つ、見る〳〵洪水が逆卷いて來る。人は此の時眞に眞面目に成る、自づと其中に大なる恐怖が伴ふ。併し是に一種の默示がある。凡ての穢を拂ひ、有らゆる罪惡を洗ひ去る。人は茲に神の偉大を知ることが出來る。彼のノアの大洪水に於けるが如く、野となく山となく、全地を掩ふ壯大の觀は、詩篇の作者をして大に神を謳はしめた。人は地震にも興味を有つて居る。地震は誰も好まぬ所であるが、此の中にも神の偉力が威を振ふのである。曾て肥後に居た時分或る夜のこと、非常に激しい地震に遇うたことがある。澤山の家が潰れたが、其時の物凄い光景に何とも彼とも云ひ樣がない、山鳴がする、地響がする、人心は洵に戰々恐々、地が裂けるかとの心地がした。又火に於ても然りである。火も亦中々恐ろしいものである。何物をも燒き盡さゞれば止まない所に其偉大壯烈なるが現はれて居る。嘗て火に就て大に感じ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

た、越後に於て石油の製造所を見た折の火である。彼處に炎々として燃え揚る火、此處に悽愴たる烈々の火、其處に一種の神々しさを認めた。石油會社の重役で海外の視察に往つて來た人の話にアルメニヤに於ては、石油が天然に燃えてゐる。その旺に燃へつゝある恐ろしい光景に打たれた時には實に神の存在と其偉大とを認めざるを得なかつたとのことである。若し夫れ幾十坪幾百坪幾千坪といふが如き廣い所の石油が燃え揚りつゝありとすれば、何たる壯大の觀であらう。之を見て思はず神を拜んだと云ふのは、寔にさもあるべきと思ふ。實に拜火とは此の間の消息であらう。聖書には火の事が多く書いてある。是は拜火教の本場であるアルメニヤに近い處から其感化を受けたものと見える。凡そユダヤ人は是等恐るべくして且つ壯大なる天地の現象の中に神を觀て來たので、彼の印度人の神を見たる所とは大に其趣を異にする。人の恐れ戰慄く天地の現象の中に神を見た。此神は如何なる神かと云ふに、實に火の柱雲の柱と現はれ、或は神は炎を其使と爲し給ふといふが如き、誠に破壞的な熱烈な性情が躍如として現はれて居る。凡そ大水の流るゝ時大地の震ふ時、大火の燒く時、神鳴の轟めく時、ユダヤ人は其中に神を感じ之を仰ぎ、之を崇めた。

ヘブル人の神なる語エルは實に力を意味す。エルシヤタルイといふのは大能との意で、神を力と見たものである。神は暴風雨の中に語り給ふといふが如き、ユダヤ人の觀念から推して見ると、彼等は此の恐ろしいものと自分とに關係があると見て、是に賴依り、守神として仰いだのである。誰か神鳴を恐れざる而もユダヤ人は雷鳴に神を見て歸依する所を見出した。誰か洪水を恐れざる而もユダヤ人は其中に神に信賴した。誰か地震を恐れざる而もユダヤ人は其中に心を慰めた。爰に確かなものがある。實に偉い宗教を見た。實に偉い所に安心の土臺を据ゑた。誠に彼等は心强い神を見出した。

▽正義の自覺

ユダヤ人には今一つ深い根據がある。其は正義の觀念である。此の力が一面正義の現はれで、茲に道義力の自覺がある。天地の活ける力の神を其保護者と仰ぐ。故に神は不義者を滅する爲めに禍を下すものと考へた。大水は不正不義なる輩を一掃するのであるとした。又彼等は道義の力を自己の内に認めた。神は物質の神でなく、之を超越したる道義の神である。故に良心と神とを結び付け、神は義人を保護し不義者を滅すと確信した。一體人が力を自覺する時には自己の情意に鑑みる。佛教では悟入が必要なので、主として智的である。恰も秋の空は一種の淋味のある月に比すべく、然るに情意に出づ

るものは燃ゆるが如き火力の神を見る、正邪善悪に現はれて來る道義的意志の力、卽ち良心の神である。火中に腕を投ずるも而も道義的意志はひるまぬ。英國の宗敎改革の際に、改革者クランメルは爲めに非常なる迫害を受け、終に其發表したる改革の意見を取消すの止むなきに至つた。處が其後に至り大に悔ゆる所あり、神に對し又基督に對して其行爲の甚だ不義なるを想ひ、其右手の一度宣言したる意見の取消を書きし故を以て、多くの迫害者の面前に於て之を烈火の中に差し入れて見る〳〵燒いてしまつたといふ事である。まことに壯烈と稱するも愚である。玆に烈火も燒き盡す能はざるものがある、卽ち正義の信念である。我國に於ても昔より忠臣義子と稱へらるゝ人は皆此の信念の上に立てる者である。少年をして首を前にして之を切らしめしも此處にある。義は泰山よりも重く、命は鴻毛よりも輕しとは道義心の力である。昔は往々彼の俠客と稱せらるゝ者の中にも現はされた。日蓮上人を斬罪に處して其刀が三折したといふ、信念の力を讃したのである。基督敎の初代に於て彼のアンテオケに於ける大迫害大虐殺の行はれた時に、女子や小供が我も我もと切られん爲めに推し寄せる、切る者の刀は曲り其腕は疲れ果てた。けれども推し寄せ來る彼等の意氣は衝天の勢を示した。道義の神との交は强健の意志を要す。この意志なくしては正義公道はふめない。彼のニイチエもユダヤ人の宗敎思想を感嘆して居る。道義の宗敎は偉人英雄の宗敎である。萬物を壓する正義の力一度己が胸中に發するや、生命何物ぞ、名譽何物ぞ、財寶何物ぞ、何となれば正義の神の上に立てるが故である。昔の忠臣義士が傍若無人の振舞を爲し得たるも此處に在る。今の人は割合に此の力を自覺しない、故に煩悶に接し苦痛に遇ふて直に頓挫する。義の宗敎を持たないからである。

▽不言の愛戀

更らに一歩を進めて見ると、自然現象の力、正義の力以上に尙ほ高い、强い、廣い、淸い、有らゆる善美を盡せる力がある。卽ち愛の力である。基督が示し給ふた愛の宗敎は折々淺墓、弱いものと誤解せらる。ニイチエも亦之を見損なつた。愛は義氣よりも大なる力を有して居る。愛は天地の中に於て、至高至大のものでなる。地震神鳴火事、成程昔から最も人の恐がつものゝ實に大なるものである。併し人の精神に至つては烈火も之を燒き盡すことは出來ない。併し義氣のみの人は世の不正を罵り、奸惡を嘲り、無智を責め或は復讎の念は盛に燃ね上る。されども愛は十字架に顯はれて居る。敵は十字架の下に遶つて口々に嘲り、叫び、狂ふ。されど基督に在つては罵倒に非ず、復讎に非ず。赦罪の祈願を天神に捧げ給ふた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

或る婦人は、初めは熱心な日蓮宗の人であつたが、基督教の說教を聞いて、初めて十字架上の基督を知つて、日蓮上人の頭上に翳された刀が折れたといふことは實に尊い事である。併し十字架上で彼等の罪を許し給へと祈り給ふた基督は更らに偉いと云つて直ちにその寺に往き實は斯々であるから今後は十字架上の基督を信ずると大膽に告白したといふ。其後婦人は二十有餘年立派な信仰を持つ基督者である。正義の力は偉い、併し正義には復讐が伴ふ。併し乍らナザレのイエスには讐討はない。是に至ると正義も愛の前には甲を脫がねばならぬ。神は正義の神と見る時は嚴である。神は愛なりと云ふ所には一層力が加はつて居る。愛を弱々しい涙の様に思ふのは大變な間違で、正義よりも更らに强い〳〵力である。人は正義公道に依つて立たんと欲せば隨分立ち得らるゝ、一朝事ある時は奮然として立つことが出來る。併し非常に惡獰な、復讐心の强い者を愛することは、正義の人には殆ど不可能である。一度斯る場合に遭遇した時は、如何にも自分の中に力の足りないことが痛切に感せられる。復讐以上の力にて勝うとすれば、忽ち惡人に機先を制せられ、元氣も、氣力も消ね失せてしまう。况んや是が敎化なぞとは思ひも寄らぬ。結局義氣を振ふ外はない。恩愛を以て之を敎化するは中々六ケ敷い。しかもこの恩愛の力が基督敎に現はれて居る、基督敎は最も高い意味に於て同じく力の宗敎である。自然界の力は人をして恐怖せしむ、正義の力は人をして畏敬の情を發せしむ、玆に又百尺竿頭一步を進めて、無窮より無窮に亘り、永遠より永遠に至る、實に宇宙萬物を翼育む愛の力に至つては、怎麽な惡人等も怎麽な罪深い人をも救ふ。固より此の方面は男子にも尠からずあるが、最も多く婦人に代表せられて居る。一種弱い様であるが、中々其强さは何も及ばない。小供が親に打たれることは多く忘れるものであるが、正義を以て詰られた時には一生忘れるものでない。併し母が詰るにあらず、責むるに非ず、何とも云はず、許して容して人知れず泣いて〳〵、そして其眼瞼を腫らす時は、小供は何とも言へず、永久に忘れることは出來ない。是が基督に最もよく現はされて居る。神は愛なり、愛の力なり、愛の意志である。ルーテルはこの意志を信じて、ウオルムズ大會に巍然たるを得た。義に由つて働く愛の意志は永久に動かざる巖である。是れぞ吾々の依り賴むべき神である。

さて冬枯の景色こそ秋にはをさ〳〵劣るまじけれ、汀の草に紅葉ちり止りて、霜いと白う置けるあした、遣水より烟の立つこそをかしけれ　（兼好）

小供に小使をやる可否と其注意

前號の誌上で海老名夫人が小供に小使を持たす可否と注意といふ事に關して、讀者諸姉の御回答を需められましたが誠に此問題は些々たる事の様に見えて、其實非常に大切な兒童敎育の上に、特に其品性陶冶の上に至大なる關係を有して居ることで御座います。此問題に就て一般の母親方は如何云ふ御考を持つておゐでになるか、家庭敎育々々といふ聲が頗る高く、いろ〳〵の方面に注意が行き渡つておる様で御座いますけれども、此の小使錢の問題は未だそれ程に研究され注意されて居ないのは、兒童敎育の爲めに遺憾な事で御座います。聞く處によりますと、多くの小學校では兒童に小使錢を持たす事は絶體に禁止しようとして、父兄に嚴重なる監督をすゝめて居るといふことですが、之れが果して適當なやり方で御座いませうか。金錢を卑いしものとした封建時代の武士氣質が殘つて居る家庭と、又は凡ての方面に餘りに自由過ぎはしないかと思はれる現代風の家庭とを比較し來りますと、全然反對な敎育方法を取つて何等顧慮する處がない様にも思はれます。扨て之を如何すべきかに就て最も經驗に富まるゝ二夫人に其實驗談を拜聽する機を得ましたので、玆に讀者諸姉の御參考に供する事と致しました。(記者)

▽月給制度で小使を遣る

金森夫人

土曜の午前に千駄ケ谷の御宅に御訪ねする、閑靜な郊外の御生活、都の塵にまみれて居る者には、おのづと四方が見渡されるのでした。御立派な西洋館、秋晴れの日光が硝子戸を通して應接間はうつとりとする程の暖かさ、まぎれ込んだ虻の羽音もそぞろに夢を誘ふ程の心持で御座いました。待つ間程なく靜かに扉を排して御出になつたのが金森御夫人。私なんぞ何の御用にも立ちますまいが、折角御出下すつたので御座いますからと御謙遜な御言葉の後に、

私共ではとうから小供に小使錢を持たす事にしてあります

が、唯今迄其弊害は少しも認めた事は御座いません。弊害どころか却つて種々な利益が御座います。多少に關らず自分のものとしてやつて置きますと、小供ながらも自分で自分の仕末をする樣になりますし、それに母親の手が省けます。お子さんの大勢おりなすつたり、又は特別に御忙しい御生活をなさる方々では初めから、小使をお持せになつた方が大變便利だと思ひます。私共では小學の一年級のときは、まだ數理の觀念も不十分だし、帳簿に記入する事も不可能ですから、小使錢を持せず、私が入用の都度與へて居りますが、鉛筆がないと申出た場合に例へば五錢をやりました時、其おつりは尚ほ其子にやつて置いて、後々の入用の時に用ゐさせる樣にしてあります。三年級以上になりますと、數理も記入も大概は自分で仕末が出來ますから一定の額を定めて月々に與へて居ります。まあ月給で御座います。特に高等女學校や中學校程度以上になりますと、月謝から被服料迄其月額から支拂はさせるので御座います。それですから學年始めなどに、今月は月謝を納めたから洋服は來月にしようなど丶、各自相應に經濟をやつて居りますので、丁度私共が一家の經濟を處理して行くのと、大小の差こそ御座いますが、少しも異らないので御座います。尤も其月額は年級が進むに從つて增額して行かなければなりませんが、同じ年齡でも男女によつては多少區別しなければならいないと思ひます。如何しても女は男に比して多額を與へねばなりません。例へば頭の事でも男なら散髮で事が濟むのを、女はリボンだ簪だと入費が餘計に要りますから手心をしなければなりません。遣りました御小使は一々帳簿に記入させ、一月の終末には夫々計算して餘分は銀行なり何なりに貯金致す事にしてあり

ます。
其お小使で食物を買ひやしないかとの御尋ねで御座います
か、左樣ですね、他所樣ではよく食物を買ふ御小使をねだつて
ゐらつしやる御小供衆を見受ける樣ですが、私共ぢや格別注
意も致しませんが、一度も左樣云ふ事を見た事がありません。
啻に食物のみに限らず、一角の家庭と思つて居ります御家庭
でも、玩具屋の前などに駄々をこねておゐでになるお子樣が
ありますが、之は全く家庭の土臺によります事で、主婦たる人
の充分注意をしなければならい事だと思ひます。

▽子供の性質を考へて遣る

某夫人

大久保村に〇〇夫人を御訪ねしたのか十四日の午後三時
過ぎ、戸山の原の秋風もさして身に寒むからず、榛木の枯れ
葉に日の光がキラ〳〵映つて、若し時間が許すなら、あの枯
れ芝に身を横へて、空行く雲を眺めたいと思つた程、景色は
郊外に限ります。招かれた座敷の椽先で夫人は御張物の最
中、日が一杯に當つてお庭の松や築山迄がうつとりと暖かそ
うである。御待ち申してゐたので御座いますよとおやさしい
御言葉、何にも六かしい事は解りません私ですから、御斷り
申したのですが、何でも可いからと海老名御夫人に強いられ

まして、御會申す御葉書だけは差上たような譯で、私は宅の
子供に實際やつて居ります事だけきり申し上げる譯には參り
ませんから、何卒其積でと何處迄も御謙遜なおつしやり樣、
餘處樣ぢや如何云ふ風にしておゐでになるか知りません
が、私は一定の小使錢をやつた方が、小供の教育上よろしい
かと思ひまして、やつて居ります。昔の武士氣質で金錢は一
際子供にはやらぬといふ主義は、一寸聞きますと、上品な性質
を與へる樣にも思ひますが、然し昔とは全く違つて居る今日
の時代に、昔其儘の主義を持つて來た處で、それが、今日の
凡ての方面に適合しようとは思はれません。金錢といふ事は
事實上一大勢力である世の中に、全く之を遠けて卑しめる事
は、時世に疎きやり方ではあるまいかと思ひます。然ればと
云つて事々に小供の請求に任せて三錢なり五錢なりを出して
與へるといふやり方も考ひ物だらうふと思ひます。母親の手
が忙しいといふ事は暫らく忍びますとしても、小供は請求す
れば必ず貰へるものと思ひ込み、さ迄必要でないものまでも
際限なく買ひたがるもので御座います。ねだれゝば何でも買
つて貰へるものといふ惡癖もつき易く、又斯うして育てた子
が成長して社會に立ち、自分でお金が自由になりました時に
濫費して仕舞ふ人が多く出來るようでは御座いますまいか。
之に反して一定の小使錢を與へて、「之はお前にやるのだから

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

自由に御買ひなさい、けれども今月は之れ切り上げないのだから其積で使はなければなりません」と云つて渡しますと、其與へたお金は其小供に自己の所有物が出來たといふ嬉しい感情を起させると同時に、濫費すればそれ以上に貰へぬといふ心配が伴ひますから、一面自由なる精神を與へると共に、又一面に於て責任や反省や克己の觀念を養ふ事が出來るのであります。

扨て如何云ふ風に與へるかと云ふ問題で御座いますが、何學年は幾何と云ふ風に割當てやるのは如何で御座いませうか。尤も初年級のものよりも上級のものか多額の小使を要する事は勿論の事でありますが、然し私は其子供の性質をよく觀察してからお小使を渡した方が安全だらうと思ひます。金使ひのあらい子もあれば或は極めて質素なものもありますから、一様にやり放しでは大變不安心で御座います。あらい者はあらい者の様に、質素な者は質素な者の様に、母親は其向によく注意して與ふる事が必要だと思ひます、宅の子供で申しますと、十五歳になる女の子が當時女子學院に通學して居りますが、之はどつちかと云へは幼少から金使があらい方でした、十三歳になります方の子は尋常六年で御座いますが。之は姉と反對で極質素な性質で御座います。實はこの子にはこの九月からお小使をやり始めたので御座いますが、初め此の子は如何云ふ金の使ひ方をするかを見たいと思ひまして、招魂社の御祭とか、又近所の躑躅が咲いたといふ時に、廿錢位をやりまして自由に使はせて見たのです。すると活動寫眞を見たとか、又は躑躅園の入場料を拂つたとか、自分にしては此日一杯の遊をして來ながらも、決してくだらぬものに濫費して來た跡がないのであります。之れなら小使を持たしても大丈夫だと思ひまして、前申す通りこの九月からやつたので御座ますが、其後樣子を見て居りますと、何時も財布に金の切れるといふ事はないようで御座います。女の子は男の子と違ひましてお小使が餘計に要り勝なもので御座いますから同様にはなりませんが、要するに何年級は幾何と定めず、其子の性質を見て其額を決めた方が安全だと思ひます。末の子は九歳になりますが、まだお小使は與へません。通つて居ります高千穗小學校では實際お小使がいらない樣に組織されて、鉛筆でも紙でも皆傳票で學校から買ふ樣になつて居り、其爲め幾干かづゝを豫納して置くので御座いますから、全くお小使を遣る必要がないのであります。若し又あつた時には十三になる兄が萬事弟の世話をして、直接弟が金を使ふといふ事は致させません。小使も小學の初年級からやる事は如何で御座いませうか。私は其子の性質の見定がついてから與へても決して遲いとは思ひません。

夫から與へるについての注意で御座いますが、お小使の使ひ道は一々明細に記載して置かせて、月末には私が一々それに目を通してやるのであります。餘りました分は各自が貯金致す事にしてありますが、餘り貯金々々と云つてすゝめますと、子供心が小さくなり過ぎはしないかといふ恐がありますから、濫費せぬ限は自由にまかして、成る可く鷹揚に育てたいものだと思ひます。

夫れから私は食物は絕體に買はせない事にしてあります、駄菓子屋の前に立つて買喰をして居るは誠にみつともないし又お腹の爲めに危險な事が多からうと思ひます、食物を買ひたいと思はぬ程充分に、おやつをやつてありますから子供の方でも外で食物を思ふ氣も出ないのであります。

いろ〳〵と親の「心盡し」を承つて居る中に大分時も經つた樣、日も陰つて御庭の芝生にも松の影が長い。お暇をするとどうか誌上には匿名で出して置いて下さる樣に、一向つまらぬ事を申し上げたのですから、大久保の一夫人位で澤山で御座いませう。と、たつての御望みで御座いました。戸山の原を横つて早稻田の方へ抜ける、初冬夕ぐれの風を袖で防いで母親の温情をつく〴〵と懷つた事でした。

母が示しくれし人生

兵働秋郎

かの如意輪臺の扉に「歸らじとかねて思へば梓弓なき數に入る名をぞとゞむる」と殊勝にもうたひし歌のぬしは、わが愛敬の弟とも思ひて我はこの夏湊川に其の母を訪ひぬ。かれによく覺悟の臍を與へまたやさしき歌の調をも敎へしといふ母こそいと慕はしかりしが、まのあたり其の温容にふれてわれはえもいはれぬ一種慈光の如きものにつゝまれたらん心地して、暫時は言葉なく默念たりしが、やがて母は其の子に與へしといふ嚴父の一軸を示しくれぬ。

四海波靜而四五日之風不レ鳴レ枝、十日雨不レ動レ壞、國富民豐成者此節也。寔堯舜の御代と可レ謂者也。近日愚亭へ入御可レ被レ下之由、大幸之至不レ過レ之、雖レ然盛夏之節、少晝眠之内も、蒼蠅聚二鼻目一、蟬聲喧二樹頭一。暫も難レ留二光駕一

候也。我等最期近々に覺ゐ候。彌勤學不二解怠一、生長之後我等心中可レ被レ察候也。

讀みもて行くに我は思ひ合することの多くて涙のにじむを覺ゐざりき。相愛の情切々禁ずる能はざるものあれども、如何せん戰の事多くして、父子遭逢の遑もあらざる亂世、櫻井驛の束の間の訣別になく〳〵かへる子を見送りながら、鎧の袖をしぼるうらめしさ、當時の光景宛として眼にあり。我は思ひに堪へで沈み入りしが、母なる人は靜に語をつぎて、其後母が一手に育てあげたる苦衷、持佛堂のことより、こま〴〵しき四圍の境遇の取捨など物語りくれぬ。その周到を極めたる心づくしに、われはいと靜なる靈感に打たれ畏敬の情を秘めえざりき。

見ずや正行の繪姿。まこと母の愛にあふれ、生命に充ちたるそのかんばせ。彼が武勇の功勳もかゝる所より生じたんなれ。

また洋のかなたに、アメリカ建國のワシントンが股肱として知られたるハミルトンの偉大を思へば、其處に彼が母の遺訓を忍ばざるをえず。時恰もハミルトンが十二三歳の頃なり。單に成功者たるに止まらず偉大なる人とならんことこそ心掛くべきなれ。汝が心と意志とだにあらば何事かならざるべき。常に最善を理想とし目前の名利にまどはさるゝなかれ。汝若しこの世界の大主義大法則と合體するにあらずんば失敗者たらんと。」何等高邁なる識見ぞや。流石は大人物の母、かくて我が子に理想を示し、確信を與へて、遠くゆけり。

あはれ母が示しくれし人生のゆかしくも亦尊きかな。かの昔源信僧都は若うして天台の峰に入り、母戀しさの爲に幾度か歸らんとしき。されど母許さず。學漸くなりて慰問の狀に恩賜の布帛を以てす。母また喜はずして曰く「天眷の榮これ何ぞ母の志ならんや。名利畢竟何者ぞや。彼れ增賀上人の如くなりてこそ能く父母をも救ふべけれ」。と、其の志に勵まされ、これより益々業行を積み、年四十二歲、始めて鄉に歸り母を觀る。幾何もなくして母逝くに際し、源信その臨終の知識となりしといふ。何等美しき始終ぞや。またかのエルサレムの殿堂に導かれしエスキリストの如き、あこがれ來れば殆ど感慨のつくる所を知らず。

あはれ、我は薄倖の身　いとけなきより父母の面影だにえ知らず。わが母わが父は何處ぞやと求めあぐみてこゝに幾春秋。われは今も尙ほ我が母を尋ねて氣餒ゑ神つかる。

母いまさば我はかく虛弱ならざるべし。この世に唯一人のわが生命を愛しくるゝ母だにいまさば我はかく脆弱ならざりしものを。母の愛こそよく人を神に導くとぞ。其の愛だにあらば我はかく狐疑逡巡せずして人を信じ、また神を崇むべき

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

に至りしならんと、またなべての知識陶冶は母の愛情に涵養されたる基礎の上にこそ有効に行はるれといふ。思へばわが行路のたじろきがちに遅々たるぞ悲しける。曾て杜翁の「人は何によりて活くるや」を讀み涙の滂沱たるを覺えき。「女々しかりし汝が半生かな。徒に愛を人に求めて蹌踉たり。今より後汝が唯一の活路はたゞ愛するにあり」と、いづこよりともなく聞ゆる聲にわが心は始めて醒めたり。はや二十歳を過ぎて數ふべきに、われは尙は愛を他に求めて懊惱しき。これより後、わが活路の開くる爲に我はひたすらに愛せざるべからず、然り我は愛すべしと、この力強き觸發より恣に愛せんとしき。あゝされどわが自由は忽ち餒わぬ。わが愛も亦忽ち枯れぬ。思へば我は愛の源泉に汲むべきすべを知らざりしなり。母のゆたかなる恩愛に親しむよしもなかりし爲め、おのづからならざるまた暢達ならざる所あり。かくて冷たき善惡の世に生ひ立ち、一個卑屈の兒、些事に拘泥する小心者となりおうせたるこそ萬事の障害なれ。

あはれ神に仕ふるものにしあらば我が精神もかくは餒えざるべし。またかく些事に拘泥せずして自由に充ちたる精神も湧きやしぬべし。惠みの母のざだかならねば歸るべき家路もなく、行くべきすべも知らず。何地ゆかなむ。日も傾かば誰かこの暗き道に光を添ふべき。

「朧夜の月」

森田蘇泉

△野中婉子の書

野中婉略傳、父は野中兼山良継、母は池氏、寛文元年高知に生る。三百年後の今日、滾々として土佐一國を流れつゝある恩澤の源泉を作りし父兼山の死後、彼れの一家は反對派の爲め、土佐南嶺、幡多郡宿毛に貶謫せらるゝや彼女は年五歳にして兄姉と共に謫所に至り、涙の露に月を宿すこと四十年、其間兄姉の多くは謫所の土と化した。

彼女は相當の文藻を有し、書を能くし、兄の友なる谷重遠（谷千城子五代祖）を師とし、詩歌を以て自ら娛めた。文祿十六年、年四十四歳の時赦されて、高知城西朝倉村に歸居し、醫を業とし、好で貧者の病を醫せり。父兼山の凛平たる風格を受け、天晴兼山の女たるに耻ぢなかつたと共に天下有數の才女であつた。

寛永五年、香美郡野地村に祖先の祠堂を建て、舊臣の忠節ある者を合せ祀り、自ら祭文を作り、更に潮江山の墓地にも兼山外數名の石碑を建て、以て祖宗の靈を慰めた。彼れ一生嫁せず、享保十三年十二月歿す。享年六十六。彼れの生涯は人をして殆ど斷腸せしむる程の困苦であつた。

左は其衣斐氏の女太田某に嫁する時贈つたと云ふ「朧夜の月」の一部である。

塚越芳太郎氏著「野中兼山」の卷末に載せられしを讀み、益する所多大なりしを以てこの恩惠に一人浴くせんことを惜み、貴重なる「新女界」の紙面を借り、敢て諸賢姉の一讀を煩はさんとするのである。

（前略）

此度何某とやらんの方へ行き給ふよし。成ほどつゝしみ玉ふべし。我身は幼き頃よりさすらへの罪に沈みし身なれば、よろづの事いさからず。此時分爰許へ來り、世間のはなし聞き侍るにも、取わけ夫婦の挨拶につたなきこといと多く、わきて聞きにくき事のみ侍る。それにつき萬に一にも若し平生の身持樣のたよりにやならんと、書き送り侍るぞかし。

一、夫といふ者は、義理に於てあなどりかろしめるものにあらず。天の如くたかくある故、隨時たふとみ、りちぎにかげびなたなき樣に、ありていに心を持つべし。われに情深き時は機嫌よくうらゝかにつかへ、又情うすきと思ふ時は皆人々顏くせあしきと傳ひ聞ぬ。それはさもしき事ぞかし。腰元や遊女ていの身持ならん。侍の子たる者は、夫婦は一體の身なれば、夫の耻は妻の耻、妻の恥夫の恥ぞかし。互に惡き事あらば人や聞かんと大切に思はべき事なるに、夫のあしき事を聞たてんとするは惡心なり。女は地にたとへしものなれば、夫に從はぬ地はなし。其道理を考へ、夫われに情なくあたり給ふとも、又はやさしくとも、義理をみだし給ふべからず。其恩愛の意を深く色に染むべからず。ひたすら夫の爲めよき樣に、家の事をはからひ、下末の者までやさしくあたり給ふべし。それともうはむき輕薄にだまし給ふべからず。いかなる愚の者も人の上は能く知るものなり。下末はつたなくあしき事をいひ、はかなき事のみ多し。ゆるし給ふべし。此心得すれば家來も我に心打とけて、惡しき事はなし。

一、第一夫によからぬ事をいひつけ恨み給ふべからず。親子さへ不斷住むとも、互に心に叶ふ事計りはなし。況や他人の寄合なればなり。然れども夫婦の挨拶は心安きがよし、左ある故いふまじき事をいひ、恨出來るならん。さりながら二葉の松の雲にそふまでと思ふ挨拶も堪忍せねばならぬものぞかし。人の家に行き我家となす事なれば、もとより苦勞あるべし。必ず／＼いづこにありても、我思ふ樣なる事計りはなし。何事につけても、父母類中のおもはくあれば、爰

を恥と思ひ給ふべし。父母は過ぎにし身と思ふべからず。鬼神となりて天つみそらにあきらかに御存知なり。子の善きは嬉しく思召、惡しきはつら〳〵鬼神も安じ給はず。こゝを合點あらば、いよ〳〵萬心を無慾に持ち給ふべし。貪る心より惡しき事起るなり。とりわけ慾のうちにも色慾淫慾ほど身を亡ぼすものはなし。爰より嫉妬出で來るなり。

一、姑挨拶色々世間に聞きにくき事多きぞかし。いか様に叱り給ふとも、天より與へ給ひし今の母なれば、とかういはずにあやまれる風情してあるべし。さあればいひやむことあるべし。

一、第一むかうに子供あるよし。他人の子とてもいとけなきはかはゆし。殊に況や偕老とおもふつまの子誰にあるとても皆いとほしき夫の子なれば、なぜに憎むべき理なし。爰をよく分別して、心をつけ、いとほしみ深く育て給ふべし。うはむきの輕薄はばけの見ゆるものぞかし。本をよく〳〵合點して、かはゆがり給ふべし。人々我腹に生れたる子を取たてんと、爰につたなき心あり。まへよりある子を大切にさへすれば、我子は天の守りありて、我力つけずして仕合よし。けつく我子をかはゆがり、まゝ子を憎み給はゞ、天の責を受くでし。繼子をほん母の心になりて見る時は、さぞ〳〵、かはゆく思ひ給ふらんと、工夫すべし。

一、家來のつかはれ者寄り合いせは咄しに、誰は旦那様の御氣に入、彼は奥様のよりは御寵愛深く箇様に仰せられしなどゝ、扨々かたはらいたく聞にくし。たとへ男の子の事なれば戯にいか様の事いかにもせよ、いかなる愚の人なりとも、我妻といやしき使はれ者とかゆべきや、それを誠と思ふは愚の事ぞかし。清少納言枕の草紙に書しにも、女の身にてもいとじんじうなるその人からの人なじみ云ふは聞よし、つたなきものゝ色々なれ〳〵しく云ふは口惜、ましておの子のえもん引つくろひ、けだかき人をわがものがましく下末のなれ〳〵しくいふは聞にくし。と云はれしぞかし。其あるじ聞き給はゞ、さぞやと思ひ給はん。然れどもせんしようはなしするかたはらにて、聞きてはいと口惜し。その様なるはなしいひかけば、にこと笑ひ必々聞くべからず。それよりして家をみだす也。詩經にも、家のみだれ外よりみだるゝにあらず。女の舌より亂ると有愼み給ふべし。田夫迄も存せし事ながら少しにても行のたよりにもならんと、俗文に書いて送る也。もの腹立ち給ふことあらば、此書を見給ふべし。必人に見せ給ふべからず。萬に心をくばり堪忍し給ふべし。

一、此度行き給ふ所先妻ありしよし。さらば前の内證の事よしあし語るとも、とかう云ふべからず、侍はかたみたがひ必口開くべからず。今をそしらんとて、前をほむるものもあり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

又今をほめんとして前をそしり、いぢはらくろくあしく云ふも有。此二色過し事にあらず。よく〱分別して思ふべし。我身を外のものになして評判とて見るべし。朝夕に道理を考へ給ふ時は、天神地神もあはれとおぼしめし、守り給ふ故に、夫婦の挨拶よく、比翼連理の思ひにて、子孫榮へ給ふべし。獨心のうちなりとも恥おもふべし。ゆだんあるべからず。慎み給へ〱。

五月やみあやめも分ぬ道筋を
尋ねてあゆめ朧夜の月。

十四年ぶりの旅路日記（其二）

海老名みや

廿七日。七時朝飯、例の通り堆高くもられた果物やトーストや半熟卵、他に二三品それにデントン女史お手前のカッフヒーの味一しほ、七時半より講堂て禮拜。今朝は良人に話をして與れとの事、急いで皆集りました、講堂は新築で和洋折衷の立派な建築、百六七十人の生徒諸姉は皆愼しんで正座されて講話を聞かれました。若きは十三四歳より廿前後の娘さん方、皆クスンだ着物に頭髪もおとなしやかに結んで居られるので、實着でおだやかで可憐ですが、脛ッきりの袴をはいて、肩で風を切つて行いてる東京の女學生を見つけた目には活氣が乏しい樣に思はれます、然し眞面目な勉强はこんな穩やかな土地でなければ出來ますまい。眞面目で謙遜で一種氣骨を持つて居られるのは同志社女學校出身の奥樣方の特色だとは東京でのある訪問記者の評ださうです。兎角浮華輕薄に許り流れ行く現代に於て、着實穩健なる教育を授け得る同志社女學校あるは殊に賴母しいことです。

今日は雨を冒して舊友を訪問し夜は平安教會にて婦人會の催しあり盆をかへす樣な大雨を冒して五六十の姉妹等集はれました。中には十七八年前親しく交はりし島田夫人中山夫人の如き、マアお珍らしいちつともお變りがありませんねえと手をとり合ふもなつかしく、又六十過ぎた老婦人達で私はアンタの娘ハンの時から知つてますせ、けふはなんでもお目にかゝりたうてきました、なんといふ人もあり、實に打解けた樂しい集會でした、嬉しさの餘り思はず一時間あまりの長い話をして後、茶話會にうつり、我も人も打寛いで談笑時のた

つゞ忘れました。樂しかりし今宵の記臆は京都の姉妹方に復逢ふ日まで大切に保存します。

二十八日。今日は講堂で何かお話をせよとのこと。嘗ては私もあの方々の樣に生徒であつたもの。今は娘と思ふ彼の方々にお話ししたい事も山々ありますから喜んでお受けしました。昨日是非にと思つた亡き父母の墓參を、大降りの爲に延して置きましたが今日も亦雨。さりとて今日延すは不本意千萬、兎も角もと不破姉を大學病院に訪ひ、山下樣と三人すつかりぬれ仕度で南禪寺へ向ひました。京都は餘り變化がないと申ましたが、川東は大學や高等學校の爲め大變りで、丸で元の姿は見ゐませぬ。昔お結びを持て野遊びに來た吉田山、摘み草をして樂しんだ近傍の畑は全然宏壯な大學の建物と、其附屬の家屋とで充たされて、實に大發展であります。無論喜ぶ可きでありますが、昔の懷かしい姿を認められないのは何だか失望の氣味もなきにしもあらずで、山下樣の建物の御說明も上の空に聞き流し、せつせと步行いて何時しか南禪寺の近傍に着きました。見れば、此處は以前の通りで、久々ぶりの私を迎へてくれる樣で嬉しい氣持がしました。天授庵といふ門をくゞり本堂の前に出ました。物古りたる立木や石のたたずまひ昔ながらの庭の面かげ實に懷しく感じました。雨に濡れた敷石をしと／＼と踏んで木立の間を奧へ／＼と參りますと、其處に父母の碑があります。丁度其筋向ひに梁川星巖と其配香蘭女史との碑が並んで建て居ます。嗚呼此處は四十年五十年の昔、國事に奔走して席暖まるの暇なかつた志士等の永遠の休息場でせうか。いゝえあの盛なる意氣をもつて瞑目した志士の靈は此寂寞な南禪寺に永遠に休息するとは出來まいと思はれます。彼等は今も尙天父とゝもに働かれつゝあるだらうと思ひます。斯う考へますと實に云ひ知れぬ嬉しい感じがしまして沈んだ淋しい氣持が急に賑やかになつて來ました。

父母の碑に別を告げて此處を去つた比はもう十二時に近いので丸山のとある家で三人晝食をして山下さんと別れました。それから五條通へ出て四條を通り近頃脫疽とかいふ病の爲に片足を切斷せられた大澤氏を訪問しました。切斷した足を前へつき出して相變らず快活な面白いお話流石に身一つを以て今日の地位を作りあげられた方だと感心しました。

二十九日。今日は昨日迄と違つて好天氣、京都のお名殘も一しく惜まれます。七時半から復々お別れにお話をしました。其後は態々私の爲に開いて下すつた同窓會で皆さんにお目にかゝり、樣々の話は盡きませぬが、時間は來ましたので中途でお別れして、ステーションへ驅けつけました。能勢中山島田其他の數姉に見送られ、五時發車しました。

薄もやの中に聞き馴れた吹田、山崎などの驛々も過ぎて三ノ宮へ着た頃は全く夜の神戸でありました。こゝも亦懷かしい處です十四五年前三年が間數百の兄弟姉妹等と、親しく交つて生活した處。窓から見ますと誰さんのお住居はあの邊で

あつたやうだ、會堂はこの邊であらう、誰か一人位は知つたお顔が見えさうなものだと眺めつめて居ましたが一人もありませぬ。神戸ステーションに着きまして心にゆきかふ人を見て居ますと、向ふからにこ〳〵と笑つて此方へ來られる、立派な若紳士があります。ハテ見た樣な方だと思つて居ますと、あゝこれからおいでゝすか、丁度よかつた、御一所に參りましやう、お迎ひに出たやうでれはと言はれるは誰あらう、今宵御厄介になららうと思つてる市田氏の若主人幸四郎樣でありました。あゝこれは又嬉しいこと、夜になつて不案內な土地、心細く思つて居た折柄何といふ幸でしやう。十四五年の昔、內の一雄とゝもに幼年會や日曜學校で先生方を困らした其いたづらお坊つちやん、マアおみ大きくお立派におなりになつたことゝ御挨拶仕て二人で笑ひました。昔今の四方山のはなしの中に鹽屋へ着ました。

ステーションから數丁の處隨分嶮しい坂を登つて、ホツト一息しては又登りますと、其の坂が段々廣い敷石となつてその行詰にお玄關があります。實に景色といひ空氣といひ高燥なよいお屋敷です。隨分歩行に御難儀な方々もいらつしやるのに、こゝまで高い處をお撰びになつたのは、其最上をとるには少しの勞は厭はないといふ思ひ切つたなされ方、流石にと感服しました。御一家皆さんの御歡迎を受けて久〳〵で實家へ歸つたかの樣に、殊に御老母の穩やかな温かい御待遇は、久しく忘れて居た母親に出會た樣で、心が溶けてしまひました。市田家には當春幸四郎氏としづ子孃との御結婚式がありまして私どもは眞に其御慶事を祝しましたが、今や又一つ御芽出たさが加らんとして居ます。花嫁樣は小サな御母樣に市田夫人はお若いお祖母樣になられんとして御仕度で可愛いおべゝが出來たり、お名の御研究があつたり、それは〳〵お賑やかです。丁度よい時に集り合て其話のお仲間に加はつて嬉しうございました。種々の御馳走や盡ぬお話に夜も更けまして廣い御坐敷に安眠いたしました。

卅日。今日は舞子の教役者會もお仕舞で午後より良人も市田氏に來られ一夜休息。

十月一日。今日から總會が始りますので、朝良人は神戸教會へ參られました。私は一先加藤樣のお宅へ參り、そこから神戸へ遊ふことにしやうと、市田氏を辭して御影へ向ひました。加藤樣では御夫婦と久子さんといふ十二のお孃さんが私

共が參るのを待ておいでになります。この久子さんは加藤さんのお獨り子で東京に居られた頃、みち子とお友達で、幼稚園から尋常一年まで御一所で、お仲好でした。早くお目にかゝつて見度と思つて住吉から車で參りますと、此處いらと數へられた見當に、ちんまりした二階家が見ゆます。加藤さんのお宅は陽氣な内だと主人が兼て申されましたが、成程はれやかな御家です。前は青々としたたんぼを越して海に面しちゆの浦風は何の障害もなく吹入て心地よい處です。此處に加藤樣御夫婦と愛孃久子さんとが明暮の樂しい靜かな生活をなされて居ますが、夫人の健康な御樣子は先づ何より嬉しく。久子さんもゆつたりと初初しうお成育になつて、お母樣のお手傳で二階へお茶をはこんだり、果物を持て來たりおもてなしをして下さいました。お別れしてもう五年も立ちますので誰樣がどう彼の方はかうと東京のおはなしは盡ませぬ。夜は有宮樣お訪ひ下すつて、本郷教會や新人や新女界のお話しで九時過お歸りになりました。

二日。今日は私に取つては輕からぬつとめを果すべき日であります。生憎前夜から少し風邪の氣味で、目覺て見ればやはり頭が重い。九時比加藤樣御夫婦久子さんと私共皆揃つて俥車で神戸教會へ參りました。聯合の禮拜式で幾百の方々が堂に滿ちて居られます。前川小磯河本の御老人方を始め、懷かしいお顏が彼處にも此處にも見ゆます。眼と眼と見合つてにつと笑つて微かな默禮に無量の情が通つて居ます。嚴肅にして溫かい今朝の禮拜晩餐を共にして式を終つた比はもう十二時間際でした。午後一時から神戸女學院で婦人大會が催されますので、早く晝食をしてそれへ參らなければなりませぬ。マア、マア、よくと二三の方と握手した許りで食事の爲に會堂を出ました。一時半女學院へ行て見ますともう集りは初つて居ました。廣き講堂は數百の御婦人を以て滿されて居ます。時々ギシリ〳〵と二階の下に靴音をしのんで男子の方が這入ておいでになります。言はずと知れたこの總會に御出席の教役者代員諸君でこの婦人大會の狀況を見又私がどんなはなしをするか聞て批評をしてやらうとのお人の惡い方々であります。斯る場所柄では初舞臺の私が此の方々を飲み込んでからには、あまりに臆病でハツト鼓動が盛になりましたが懷かしい姉妹方の顏を見ては、其方々は何時しか我眼に映らなくなりました。これは私一人の感ではなかつたと見えて、私を姉の樣に思つて居て下される一人の姉妹からあとできゝましたが、ほんとうにひどい方々だ。人を困らせる爲に態々聽に來て、思ひやりのない方々だ。心からにくらしかつたと申されました。おこがましい、こんな大會などで私などがお話をするとは不似合だと思ひましたが、それは他人行儀の考で、久しく相逢はなかつた其の姉妹達に珍敷逢つて話しをする、而も我心にあまる處を分けて負て御貰申のに何の遠慮もいらぬ事と決心をしまして、御受をしたわけでありましたから、幸にお話をする時もそんな氣持で、愛する姉妹と差向ひの坐談の樣で誠に心安く感じました。牧野牧師が好いお話で末を結んで下さいましたので首尾よく大會も終りを告げ、サア之れから懷かしい姉妹方にお言葉を交ゆるので嬉しくてたま

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

りませぬ。然れどもとてもお話をして居る暇はありませぬ。マアお珍らしい御機嫌ようの二言三言、之れではあまり本意ないと姉妹方は卽座に御相談になつて明日神戸敎會婦人會を開くことにして下さいました。歸途電車内で大阪の杉田夫人と同車しました。夫人は同志社時代の同窓で、なんでも二十幾年とお目にかゝらなかつた樣です。これは數分でお別れして澤村夫人と御一所に加藤氏宅へ參りました。澤村氏とは二十四年特別のお交りを續ける間で御夫人とは澤村夫人になられし當時から御手紙の往復もし眞の姉妹もただならぬお交りをして居ながらお目にかゝるは今回が初めて。それで珍ら敷て〳〵少しでも一所に居たいと思ふ情は切であります。一見舊知とはこんなものでしやう。いやもつと深い意味だと思ひます。夜更るまで語りてつきず無理にお別れして電車で御歸宅になりました。夜の集會を終りて良人も加藤氏とともに歸られまして、あんのじやう、なんのかんのと晝間の批評が出ましたので、私も加藤夫人と共に、あなた方も批評しに態々聽にいらつしやるとは隨分ひどいと散々申ました、はては大笑ひですんでしまひました。

三日　此日は終日非常な刺擊の爲に全く忘れて居ました風邪が、昨夜來チト烈しくなつて、今朝は餘程苦るしうございます。午後の婦人會はなんでも出なければならぬと思つて中日寢ました。十二時過加藤夫人と神戸へ出かけました。

參つて見ればもう大勢お見えになつて居ます。今日は初めて御名々に幾分かお話をする事が出來ました。十二三の孃さんであつた方が立派な奥樣になつて子供を抱いて居られるやら十四年前の花嫁樣が今は年増の奥樣盛り。其頃二十六七歲から三十五六であつた方々が、割に一番お變りがない樣です。五十人の姉妹だち、老たるも若きも何の隔心なく一堂和氣洋々たるに互に思ふことども心行くまでお話して問はれつ問ひつ滿足致しました。

五日　今日は名殘惜しい神戸を去つて大阪に參ることにしました。高木樣とは長年別懇のお交際をして居ながら、其奥樣には一度もお目にかゝつたことがありませぬ、今回お目にかゝる機會を得たのみならず、其御宅に御厄介になることは誠に仕合で嬉しうございます。御夫婦のお心盡しの御もてなしは只感謝の外はございませぬ。細かいことから大きいことまで行届いたお世話、どうしてア、たやすく出來になるでしやう。凡そかの地に參らるゝ敎役者の方で高木樣の御厚遇を受けない方はありますまい。大阪の滯在二日は前後におさらぬ樂しい事でした。

七日　初秋の天氣麗かに、今日は私を正賓として（高木樣のお言葉を其まゝ）同勢十四人、卽ち高木、澤村、加藤、森田、海老名の五夫婦に小林、山本、渡瀨、平田の四氏寶塚へ松茸狩にと出かけました。男子方はズボンにワイシヤツ、婦人は麻の葉中形の揃ひの浴衣と云ふいでたちで、仲々に險しい山を、我劣らじと松茸をあさつて登つた元氣皆々さかんなものでした。あれあすこにと一つみつけて行て見る其近傍に三つも四つもあるので小林さんまでが夢中になつて道もない處を踏み別け〳〵お登りになりました御樣子、天晴の武者振

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

でした。數時間で狩り得た茸三貫五百目。むしろの上に山をなしました。山でお辨當又下りて御馳走、實に今日こそは天氣よく人よく天然よく、空前の樂しい遊山でございました。願はくは絶後ならぬことを望みます。かくて再び梅田へ參り六時幾分かの急行にのり込みました。今日の御一行に加へて田口夫人有富夫人など十數人のお見送りの中に汽車はプラットホームを離れました。あゝ此行の樂しかつた記憶は我殘れる生涯を通じて何時までも〳〵消えないことであらうと思ひます。

星を尋ねて

「小女宗教歌劇」

淺田泰順

二千年の昔聖子降誕の當夜「ベツレヘム」の空に顯はれしてふ星の今夜の「クリスマス」にも出でなむとてそを尋ねて星界に昇らむとする無邪氣なる姉妹二少女の空想を仕組みたるものなり。

出演人物

小女　二人（姉妹）
天使　一人
合唱隊　三十人（香柏會員）

舞臺面

曠野の彼方に遠山を表はしたる背景、弱き青色燈光を用ひ一體につとめて夜間の寂寥を表はす。

序樂（風琴曲）

開幕

三部合唱（純聲樂）　（山家春曉之譜）

前提

（一）聖誕を告ぐる　星の影に
牧場の子等が　ほぎ歌ひき
今し我等も　たゝへ歌はむ
とく出で來ませ　奇しき星よ。

（二）聖誕を祝ふ　天使の歌
數多の博士　忙ぎ行きぬ
今し我等も　忙ぎ行かなむ
導き給へ　御使らよ。

洋琴間奏（沈んだる曲想）
間奏の途中より二小女白衣にて徐々登場
間奏終りて齊唱に移る

小女齊唱（バイオリン伴奏）
星を慕ふ歌（「月」の譜）

（一）昔思へば涙なる　三十年あまり苦を忍び

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世に御教を給ひにし　あな慕はしの君エスよ

(二)今宵時しも「クリスマス」　輝く星の出でなんと

路をたどりて遙々と　猶太の野邊にぞ來りけり

(三)星の出でなばねぎ事を　捧げて心打ち清め

御使たちに伴はれ　星の國へと昇り行ん

洋琴間奏（華やかなる曲想）

間奏の途中に一個の星を顯はし間奏後姉妹の連唱に移る

小女獨唱（洋琴伴奏）

星を見出したる悦の歌（讃II、三二一の譜）

(姉)彼方に見ゆる　奇すしき星よ

あはれ〳〵　星の影よ。

(妹)常世にあせぬ　聖星の光

仰げ〳〵　あなうるはし。

小女齊唱（洋琴及バイオリン伴奏）

天使を呼ぶ歌（I、九八）

天津御使よ　疾く〳〵來ませ

御空の彼方へ　導びき給へ

御神の御座なる　きらめく星へと

行かなん〳〵　伴ひたまへ。

二小女歌ひ終りて合掌冥目祈禱の狀をなす

風琴間奏（幽かにして莊嚴なる曲想）

天軍四部合唱（純聲樂）

天使降臨の歌（I、三五五）

迎への使は　今しきまさむ

翼打ち交はす　音の聞こゆ

ほめまつれ　たゝへまつれ

尊ふとしとも尊ふとし　人の子等よ。

白衣の天使頭に小星を戴き脊に双翼を備へて登場中央正面に止まる

天使獨唱（洋琴伴奏）

小女に告ぐる歌（I、二四九）

乙女〳〵　うるはし

慕ふかなれも　エス君を

伴ひ行かむ　星の彼方

とく〳〵きね　いざゆかむ。

天使の獨唱終りし時、小女天使の足下に膝まづき（跪き）て各天使の片手を握る、後二人立ちて星界に進み同時に三人齊唱に移る

天使小女齊唱及四部合唱（洋琴伴奏）

國　歌（I、三七〇）

(齊)天津みくらに　ましまして

地にある國を　統べたまふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

主の大前に　み惠と
御稜威畏み　伏し拜む
(合)心に詞に　溢るゝ悅び
いかに包むべき。

國歌終れば背景を前方に倒し、極めて華美陽氣なる一面の雲界となし、大小無數の雲塊と文なす星とを顯はし、特に中央(奧)の方に一大雲塊をしつらへ、其背後に天使と二小女とを立たしめ、更に其の少しく側上方に一大靈星を置く、小女昇天の光景也。

天軍四部合唱（純聲樂）

祝福之歌（Ｉ、四八二）

(一)天使の歌は幽かになりぬ其身に長への悅をまとひ、星を求めて昇りし子等よ御神は憐みさきわひたまはむ。

(二)全能のかみに救主に慰めぬしに、昔ながらのみいつ常磐かきはにあれや。

幕

北清見聞記

片山幽吉

△支那料理の献立

清國へ來て居る我等日本人中で一番評判の高いのは支那料理のおいしいといふことである、だから誰でも不取敢料理店へ駈け込むのだが、之には二種ある、一は飯莊と云つて日本の大料理屋に當る、即ち多人數の會席等をやる所、も一つは飯館と云つて日本の小料理屋に當る。勿論之でも御飯も酒肴も出すが、第一規摸が、小さく隨つて非常なる御馳走も出ない、ソコで我々は飯莊へ出掛るとしよう。

支那料理は西洋料理や日本料理の樣に一人前何程と計算をせずに、一卓子何程と計算するのである。此一卓子が通常八人若くは十人位で、中には四人のも十六人のもあるが、何れも偶數で無くてはいけないのである。普通御幣かつぎは奇數を喜ぶに、清人は常に偶數を喜ぶのは、マサカ孔子大先生の四角四面主義から來た者ではあるまいが、一寸注意を要する。此一卓子が普通十弗から十五六弗である。斯う云ふ有樣だから、食事には必ず一定の人員を作り、可成多數なのが經濟である、二三人食べて八人分も取られては堪つた者で無い。

さて愈々飯莊の方へ罷り出ると、澤山ボーイが居つて金切聲で挨拶して一室へ導く。到れば設の茶が出る。此茶が中々振つてる。之は日本の蓋付茶碗であるが、夫の中へ一個々々別々に茶を入れ、夫に熱湯をついで出すのだ。だから此蓋を一寸傾けて其スキ間から呑む。之を呑むのに音を非道くさせ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ればさする程上手なのだと云ふが、何んぼ清人は音がすきだつて之は本統らしく無い。此茶は日本の茶とは違つて、一種香の高い草花であつて、一種ムスクが香る様で嬉しい。

夫から一寸申上げるが、支那人の卓子は眞丸である。之のぐるりに圓座してやる。隨つてテーブルマンナーの如きも、西洋式や日本式とは丸きり違ふし、又卓子の上へ色々な汁だろうが、骨だろうが、何んでも構はずおつ放り出す。夫で足らぬと卓子の下へ遠慮なくさらけ落す、其光景や實に慘又慘なる者がある。お負に支那人の牛飲馬食に愈となると上衣をぬぐのである。之は禮式であつて、何んでもしたゝか召上られんことを希望するの意味だそうだ。之でも牛飲馬食の程が思ひやられる。序に申すと日本人は箸許り、西洋人はナイフスプーン、ホークだが、支那人のは和洋折衷的に箸と日本在來のと同じスプーンと二叉の長いホークとである。長い箸でつまみ、スズーンですくひ、ホークで刺すのである。之を時々紙で拭ふて用ふるのでナプキンは無い。

之より先き第一に手を着けるのは西瓜の種である。之は支那人の尤も好む者だが、我輩には之を巧みに前歯で嚙んで中から實を引き出すのは中々六ケ敷い。然し之が十分出來ぬと未だ支那通の金看板は揚げられぬそうだ。之も大體にして愈丸卓子に着席すると、卓上四方に菓子に水菓子がある。續いて四角に菓子や菓物が出る、次には愈大皿が中央に出る、普通大皿八盃に小皿四盃になつて居るが、夫からは好に應じて出す。

大皿には先づ鳥の煮たのとスープが出る、之が素的にやはらかく殆んど箸にもかゝらぬ有様、加ふるにスープをも吸ふ必要があるから、老人等には極適當である。夫から魚の煠煮、之は一度燒いたのを又したゝかスリプを入れて煮た者で、長さ一尺にも渡る魚が頭も骨も皆喰べられる。頗る經濟的であり又一寸おいしい。生臭い者のお嫌ひの方には之は適當である。夫からは鰒のお吸物、之は日本のと別に變りなし、夫から尤も珍らしくておいしい者は、例の鱶のヒレである、あの堅い者を如何して煮るか、極く柔かく菎蒻の様に煮てある。夫においしく味をつけて居るから、之丈は日本料理にも西洋料理にも無い味を持つて居る、夫からも一歩進んで米國人のトルキーの如き最高最好の御馳走は

△燕の巣

である、吾輩の考へでは燕の巣が如何して喰べられるかと思ふが、之は昔から燕は最後には海に沒して飛魚になるのだと傳説せられて居る。海岸に居たる燕は何種の屬するか如何かそんな事は一向知らないが、兎に角此燕が海から甘しい海草を取り來つて貯へて置く。之は猿や熊もやるし、又百舌鳥等

もやつて居る樣に、冬の準備でもあらうが、其海草が素的に甘しい。そこで淸國人の食辛抱は遂に之を發見して、最高料理には必ず用ゆることになつたのだ。所が之が容易に得られず北淸には無論無いが、南淸へ行くとあるといふ事である。此他大皿の方ではうどんのお吸物や白菜のお汁や豚の血の丸めて煮た者やが出るが、餘り感心が出來ない、否食道樂の興味を引かない。

先づ大鉢の方は之等が重なる者だが、小皿否小鉢になると多くは蓮の實の吸物や菌類の夫や、大部分は野菜物に屬する此他附屬小皿としては、豚肉のハムや家鴨の子の蒸したのや蟹の鹽漬や、醬油の漬物や其他種々樣々な者が出るので、以前の大鉢小鉢に此小皿を添加したら、無慮四五十種は出るだらう、氣短かき日本人には迚も數へ切れないが、之を一同各自分の箸やスプンやホークで交々取り合つて喰べる。日本人の肉のスキ燒の事を思ふと何んでも無いが、隨分非衛生的な不潔なやり方である。併し支那人は一切生の物は呑もせず喰べもせない。故に之等も一度は火を通して居るから比較的危險は少いが、前のお客の食ひ殘りが直ぐ後へ續々とやつて來ると餘り氣持はよく無いものである。

かくして愈々終局に近〱と、御飯と豚肉入或は棗入の饅頭が出る。終りに例の粟のお粥が洋食の菓實の代りに消化劑として出る。此間お酒好きの人間は、例の高粱で作つたカウリヤンチユウや粟で作つた黃酒を飲むが、日本の樣に米で作つて酒精分の强い酒は無い。隨つて一人として醉つ拂ひが見へない、之は一つは例の經濟思想からも來たのだろうが、一つは酒の性質によるのである。日本も國民の大酒精中毒を防がんとせば、先づ酒の改良を要するだろう、夫とも舊來の日本酒は一切廢してビールを代用せしむるかにあらう。

以上先づ大體予が實驗上の支那料理の献立を一通り述べたが、尙ほ詳細を知らんと欲する人は色々書物があるから夫を御覽になればお解りになる事と思ふ。同時に僕が特に注意するのは、支那料理は徹頭徹尾油即脂肪分を豐富にする事と、何れの御馳走も皆スープ即汁氣を主にする事である。十中九分九厘迄は、お吸物式であつて我々日本人には向かないが、淸國人には先に述べた樣に氣候風土の關係上、此方面に發達したのであらふ。隨つて日本人が魚肉と野菜を好むも其氣候風土が然らしめたのであらふ。現代に至つて今更に獸肉を喰べぬと、文明人に伍せないかの如く、若くは强健なる身體や意志を把持し能はないかの樣に、ハイカラがるのは聊か考へ者だらふ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

冬の衛生實驗談

海老名みや

晩秋の色もだん〳〵褪せて參りまして、朝夕はお寒さが泌み〴〵して來ました。一體私は弱い癖にお寒い方が好きで、秋から冬にかけては身が引しまる樣で、自づと餘計働ける樣に思はれまして、寒くなるのを樂んだものですが、此十年來冬が嫌ひになりました。其譯は小さい子供が殖えまして、ヤレ風引た、ひゞだ、霜やけだと仲々手數が懸りますので、復冬が來たかと心から嫌に思ふ樣になつたのです。然るに近頃此咸が段々薄らいで來ました。といふものは此の兩三年、殆どお醫者樣の御厄介にならない樣に子供等が丈夫になりましたので、冬に對するいやな聯想が段々なくなつたのでせう。勿論小供が段々成長致しますので扱ひ能くなつたのは事實でありますが、又私の小供に對する注意や扱ひが餘程熟練した爲でもあらうと思ひます。少し素人講釋をして見ませうか。

▽過食の事

凡て病氣は未發に防ぐ事が肝心で、しかも其健康の最もよい中に、注意を加へて置樣にしなければなりませぬ。たとへば酷熱去つて段々秋氣が立つて參りますと、誠に氣持よくなりまして、體全體が活潑になり胃の腑も從つて大に活動し出すと見えまして、どん〳〵食事が進んで參ります。これはよい事で、此機に乘じて十分の滋養も取り、力もつけて置く樣にせねばなりませぬ。又此時が注意のし時だと思ひます。めつきり頰もふくよかに紅さして、見るからに氣持よく肥つて參りますのは十月十一月十二月の初といふ頃で、子供も親も仕合な時でありますが、サア其時が母の注意の最も穎敏に働かばねならぬ時だと思ひます。子供の食が進むがまゝに過食させて置ますと、いつとはなしに胃の腑が疲れて來て、ポツ〳〵食欲不振の模樣が見え出します。折柄氣候は急激な變動を生じます爲につひ風邪にかゝる、サア左樣なるとつひ鼻風と思つたものが咽喉カタール氣管支カタールとなり數日にして、折角丸々肥つて居た肉を、すつかり減らして仕まふといふ事になつて仕まひます。これは時候不順の爲で强ち過食の爲ではないと皆さん仰られましやうが、私の考では胃腸は凡ての健康の元で、胃に疲れを生じて來ますときつと體全體に影響を及ぼす事は爭そはれない事實で、少しの事に風を引くといふ樣に抵抗力を減じて居るのです。それでどうすればよいかといふと一番食事の進む最中に少し控へ目にして、又食物も可成調和をよくして變化を與へる樣に氣を付けて參りますと、必ず工合よく此處を通り拔ける事が出來ます。十二月

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の中旬から一月二月三月は子供に取つては難儀な時期です。その困難な一月二月になつて注意を始めては最早手後れだと思ひます。只今が注意すべき其時機だと思ひます。

▽外氣の事

今一つ最大切な事は外氣に觸れさせ日光をあびさせる樣に十分氣を付けなければなりませぬ。殊に此外氣に觸れるといふことは最大切で近頃西洋人の中には專らこれを實行して健康を保て行かれる人もあります。私の知人で某夫人は餘程ひ弱なたちで一時は肺尖カタールではないかと思つた位でございましたが、近頃は段々強壯になられますので、聞いて見ますと、夜椽側に寢られるさうです。御自身一人のみならず子供も兎角風を引て困つたから自分と同じく椽側に寢かす樣にしたらば、とんと風を引かなくなつたとのお話です。これは只一二の人に

止らず大分流行して居る樣です。私はまだそれを實行する勇氣はありませぬが、部屋の空氣を可成外氣と替らぬ樣に能ふ丈開放するといふ方針を取てをります。お寒くなればきつとガラス戸を椽側にたてゝ日光のみを歡迎して外氣を防ぐ樣に致しましたが、此二三年一切ガラス戸をたてないことに致しました。すると其結果は如何であるかと申ますと、不思議にも子供の風引はとんと減じて仕舞ました。大抵お寒い時でも子供は椽側や庭で遊んで居ります。ガラス戸をたてゝ椽側に薄べりでも敷て置きますとそれはお暖かでほか〳〵する樣ですが、どういふものか、その中で許り遊んで居ります頃は度々風を引まして、そして其風が容易に拔けませんで困りました。これは全く空氣の流通が能くない爲だらうと思ひます。外氣にふれ日光を思ふ存分あびて自由に飛

廻つて居りますれば、屹度丈夫になります。うつちやらかしの子供が丈夫であまり大切にする子供が弱いとはこんなわけかも知れませぬ。此開放主義は可成實行して御覧遊せ、きつと著しい効果があると思ひます。

▽着物の事

それに今一つは着物を着せ過ぎない樣に。これも親としては六ケしいことですが厚着はきつと能くありませぬ。今からして程よく馴して置きますとよく冬を越すことが出來樣と思ひます。病氣の看病を能くする事も母親の大切の仕事でございますが、病氣にならない樣にすることは尙大切だと思ひます。

次號には五六才から七八才位の男兒の遊びに付て皆樣の御實驗を伺つて見度ど思ひます。外で棒切を以てかけ廻つて遊んで居ますが、たま／＼内へ這入つて參りましても、物差でも何でも手當り次第長いものを以て遊びますと隨分こまります。それで、外ではあばれて、内ではおとなしく遊ぶ樣にしたいと思ひます。それにはどんな遊びが一番よいでしやうか。一人で遊ぶ事。二人以上で共に遊ぶこと。遊びは子供の勉强と申てもよいと思ひますから能く／＼研究して見たいと思ひます。

湯臺叢話（其五）

谷津直秀

十四 エール大學の倫理學の敎授が支那に旅行したとき、餘程以前に自分の敎へた學生に遭ひました、其學生は非常に感謝の意を表し、現在の樣に出世したのも全く先生の講義に感銘する所あつたに因ると云ひました、敎授大に得意になつて、其では倫理のどの邊かと問ひかけましたが、其返答は意外でした「いやそれは倫理の或る時間に先生の云はれた明晰に考へろ（クリヤ、シンキング）との二語です」何げなく口や筆に迸しる言葉の、思ひがけない邊に思ひがけない影響を與へてゐることを考へますと、吾々は謹み過ぎるといふことはありますまい。

十五 ホヰッチャーが或る晩餐に招待されたとき、燃ゐるが如き紅の襟飾をして衆人の前に表はれました、皆々一驚を喫せざるを得ませんでした。平素質素なクエーカーの詩人が氣でも狂つたのではないかと心配した人もあつたそうですが、後で此人は色盲で自分では綠色のだと思つて居つたことがわかりました。これは此の詩人の作を讀むときに考へに入れて置かなければならないことでせう。

十六 ゲーテが人は出來ないことを爲し能ふ動物であると云つてゐる。吾人に此力を授かつたことが今日の吾人を見る次第である。

十七 ライプチッヒ大學はドイツで二番目に立つたもので（第一はハイデルベルク大學）去年其五百年祭が擧行されました、其式は中々莊嚴なもので皇帝を初め他の二十の大學の總長金色燦爛たる禮服を着て參列して居る。私の一人の知己も列席しましたが其人を感動せしめたのは式場の舞臺の後方に立ち列んでゐた各學生團の代表者です。夫は式中三時十五分間大理石の像の樣に身動もせず毅然として直立して居たことです。其訓練と耐忍には他國の學生はとても遙かに及ばない。ビール牛飲黨にも係はらず、ドイツ魂は矢張り燦然として光輝を放つてゐるのです。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

摘草集

▲冬着買ひ方の參考

齋藤　春代

▲まぜ織は、また甚だ壽命の短いもので御座います。木綿に絹をまぜたもの、毛織に絹をまぜたものなども、細い絹絲から先づぬけて仕舞ます。また縦が太くつて、横絲が細いとか、横が太くつて縦が細いといふやうなものも矢張同様で御座います。瓦斯類も弱いもので御座います。殊に臺所などへは一切出ないといふやうな家の奥さんは格別、朝夕は臺所に出て、自身に料理などをなさる奥さん方は、ふだん着にまぜ織を お用ゐになるのは 殊に損で 御座います。中流の家では木綿を用ゐる所には純粋の木綿を絹物はまた絹物とした方が宜しう御座います。純粋の木綿は幾度でも洗張が出來、よそ行きの絹物も洗ひ張りもまた補綴も出來ますが、まぜ物は洗ひも餘りきゝませず、絹物のやうにつぎも充分に出來ないもので御座います。

▲不断ものでは結城木綿（御承知の通りこの頃は柄も前ほど單調でなくなりました）、チョイ／＼着の銘仙、男物などは結城紬、大島紬、薩摩がすりなど。古くより名のある品物は、一時の流行物とは反對に、後のためになるもの丶随一でありませう。

▲縞モスリンには、またいろ／＼な柄が出來て居ります。輕くして濕氣をもうけず、裏返しもきゝますし、單衣のみならず、また袷にも時としては綿入にも用ゐられて居ります。値段は三四圓といふ所で、木綿よりは體裁よく、まぜものよりは保ちがよいといふ所で重寶だらうと思ひます。序に申し上げて置きますが、モスリンを綿入になさるならば裏にばかり眞綿を引いて、表には決してひかないことです。ふき出して始末のわるいもので御座います。

▲子供の不断着などは、一つ身三つ身など、どうせ長くは着られぬといふやうな場合もあり、また成るべく輕いものにしてやりたいといふやうな條件もありますゆゑ、男の子などには瓦斯もの丶絣なども重寶でありませう。紺がすりをきるやうになつたなら染めのわるい安いものよりは、久留米などの方が宜しう御座います。よそ行きには結城などがよいと思ひます。女の子の服裝となりますと、友禪メレンスは、前に申しました、黒地赤地などは、先づ宜しう御座いますが、大概は實にはげやすいので、不經濟なので御座いますが、輕いのと暖かいのと、さうして如何にも美くしのとで、十歳までの女の子には、どうしても着せぬ譯には參りません。友禪の太織は唐ちりめんよりは、また一層に弱いものですから、成るべくは外のものにしたいと思ひます。下着としては、いたじめ絹は輕くもあり、はげもせず、後には胴抜きにもつかはれるといふやうな譯で重寶なので御座います。品のよい色合の落ちついた銘仙は子供の着物としても、また重寶なもので御座います。四つ身を着始める頃に　一反でチョイ／＼着る筒袖な二枚も揃へて置くと、洗張りさへ丁寧にすれば、幾度か洗つてもみにくゝならず、長い間着られます後には一緒二枚にして、また何にでもなるといふゝなことで御座います。八つ位にもなりましたら袖の長いチョイ／＼着などは、矢張銘仙位で一反で裁つて置く方が經濟的で御座います。（婦人之友）

▲經濟になる炭

土竈の楢丸で直徑一寸五分から二寸位のところで根の部分に五六分の燒け殘りのある炭ならば本場から來たまゝでありますが素人の方は其殘りがあると嫌ひますから賣店では大抵それを切り取つて入れ直します。若し正直な店ならばそれをつけますし、又俵に附ける木札も栗なら栗、楢なら楢と書いてありますが不正直な炭屋では削つて違つた文字を入れることもあります。

次に五貫入りと申しますのが目方がなく、四貫二三百匁かないのは遠方から運んで來た爲でありまして、折れて小さくなりましたのを抜き取つて、長いものばかり見掛よく揃へた爲に減じたのであります。炭は寧ろ長いの、中に少々位折かげのある方が確であります。之は缺けが多いから良くないとは素人の申す事であります。

▲炭の買ひ方　炭は一俵買ひよりも一纏めにして買ふのは餘程の經濟であります。一俵と百俵との差は三割位になりますから、知合同志で問屋から纏めて買つて分配ますのが最も徳であります。尚ほ他の方法としては夏の初め炭が要らなくなりました時に次の秋冬の分を廉く買つて臺所の床下や其他濕つぽい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

床下に入れ置きますと目方も增し、火付もよく、火力も盛で時々實に比較しますと三割位は確に經濟になる相であります。而して炭は床下の濕氣を去りますから家庭の衞生上よりも非常に良いのでありま す。それから一寸經濟になりますのは中粉炭、之は荷の上下しに折れて細かくなつたのを集めて廉く賣るのでありますから家庭には多く喜ばれます。（新民家庭）

▲臺所と「アスフアルト」

農學士　西村　寅三

近來、石敷や「セメント」の代りに、「アスハアルト」を用ゆることが、漸次に增へて參りまして、既に臺所などにも用ゐて居る人も大分あるやうですが臺所に之を用ゐますには、少し注意を要するのであります「アスハアルト」は、石や「セメント」から見ると、足觸もよく、わる冷も致しません、立働らきをする臺所などには最も好いやうに考へられますが、之は充來古代動物の地層内の遺物で、堅い脂のやうな物ですから、熱に對しては抵抗は、到底「セメント」や石には及ばぬので。之が「アスハフルト」の缺點であります。從つて「アスハアルト」の床には、少し火持の永いものを、火の燃いたまゝ落して置きますと、ジャ〳〵と云ふて溶ける樣なことがあります。又炎熱の烈しい暑中に、重い物などを久しく置きますと、其下だけが凹む樣なことがあります併し本邦で「アスハアルト」を利用するやうになつたのは極めて最近のことですから、未だ受負者の技倆が充分でない所もありませうし、又、「アスハアルト」の性質にも關係するのでせうが、要するに現在の狀態で、「アスハアルト」の床を造らせるには此邊の注意が肝要であります。特に臺所のやうに、常に多く火を使う場所では、最も考へものです。併し足觸りとよく、冷方も少なし、水に能く堪へ、奇麗に掃除もできると云ふ種々の特徴を持つて居ますから場所によつて巧く使ひ分たならば、非常に有益であらうと思ひます。例へば、臺所でも流下、押入下、揚板下等に用ゆれば至極妙です、濕氣を防ぐと云ふ點は、實に妙でありますから、居間の押入下の床をつくり、他の床下から濕氣の通ぜぬ樣に壁でゞも仕切を付て置きますと、押人の中の物の濕ることは稀でまります。竈前、風呂の焚口の前、七輪を置く下床、其他火や熱い物を扱ふ場所は、石の方が宜しい。但し金魚を放つ池や飲食物を入れる桶などには、宜しく御座いません。（婦人畫報）

▲暖爐を如何な風に使ふか

▲恐る可き炭酸瓦斯　暖爐を使用するに最も注意すべき事は絕ねず湯を沸騰させて室內の空氣を濕潤に保つ事である而して成る可くならば室內に寒暖計を備へて六十度內外の氣溫を保つて置く方が好い、餘り氣溫を高め過ぎると頭痛がしたり眩暈がしたりする計りでなく急に外氣に觸れる場合は風邪に罹り易い殊に密閉した室又は洋館ではともすると窒息することもあるから氣溫を適度に保つ事湯を沸して炭酸瓦斯を消滅する事を忘れてはならぬ。

▲日本室向の暖爐　暖爐には種々雜多な種類があるが日本室に用ゐるには是非共瓦斯又は木炭コークスを燃料とし煙筒を附けないで使用する事の出來る物でなければならぬ日本室用は大抵圓筒形の鑄鐵製にニツケル鍍金を施し贅澤なものになれば全部陶器で包んだのもある何も持運びに都合よく特別の高溫度が出ない代りに永く氣溫を保つ樣に出來て居る其外に米國新輸入の石油暖爐がある之は石油を焚くので極めて輕便な上に取放して携帶する事も出來る値段は四圓位から十四乃至二十圓位瓦斯ストーブは八疊間位の處に用ゐるのは一寸した菓子箱位の大さの物で十八圓位一時間の瓦斯使用料は先づ四錢內外と見て差支ない之は燃料の費用から見ると普通の暖爐に比して不經濟を免かれないが體裁と便利の點から云へば之に勝るものがない。（國民）

津の國の難波の春は夢なれや
あしの枯葉に風わたるなり（西行）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時事其折々

▲暹羅皇帝の崩殂

十月二十三日暹羅皇帝チユランコーン第一世陛下には腎臓病で溘焉崩御（寶齢五十八歳、在位四十三年）遊ばされた事は既に讀者諸姉の御記憶に新しい事で御座います。元來暹羅國と申せば、我日本國や、清國と並むで東洋の三獨立國のでありますが、皇帝は卽ち專制獨裁の君主で、行政の全權は其總攬するところでありまして、之が輔弼の機關たる外務、內務、司法、大藏、文部以下の諸大臣も大概國王の異母兄弟を以て之に任じ、一八九五年の法令で立法院（我帝國議會に相當す）の組織が成りましたが、之は未だ議院として見るべき者ではないのです。殊に一般國民は皇帝を以て全能者視し、領土は勿論、生產物若くは人民自身も國王の所有であると信じて居る位であります。それで、流石に聖明に在はした故陛下の政治もやはり專制政治たるを自然免れませんでした。とはいへ、其御在位中の治績は大に見るべき者があります。其第一に顯著なる者は、いふまでもなく歐米文物の輸入であつて、これは所謂外患があれば自ら自國が富み且强かるべき活例の一であります。故陛下は此活例を示された。と申すのは、つまり、印度諸州卽印度の本土、安南、緬甸、交趾支那、等が夫々或る名稱の下に英佛兩國のために吞噬さるゝのを視て、其轍をふまないやうにと心懸られ、卒先して軍備を改革し、敎育制度を刷新し、鐵道を布設し、其他住居の末に至るまで一大維新を施され、心私かに第二の日本たらんことを期せられたのであります。一八九七年親ら英國にも御巡遊なされ、たのみならず、又皇太子を倫敦に、王族を日本に遊學させられた事があります。例へば、現東京女子高等師範學校舍監喜多見佐喜子女史の監督の下に王族の少女連を托されて都下の女學校に通學させたやうなこともあります。又、政務顧問として米國ミシガン大學出身なる法學博士政尾藤吉氏を聘して、法制其他政務の改善に心を致し、昨年十二月談判最も困難であつた英國との間に條約を締結し、一八八三年の英暹條約中の治外法權に關する細目を廢棄することが出來ました。我安井主筆が往年彼國の皇族女學校の學監として聘せられたことは讀者諸姉のよく御存知のことでありませう。

で、今囘大位に卽かせられたのは、チヨウハ●マハ●ワジラブー殿下と稱せられ、今を距る十六年前に皇太子宣下がなりました御方で御座いますが、元來故陛下には、先皇后の出たる廿八歳と廿四歳にならせ給ふ二皇女と現皇后の出たる卅一歳、三十歳及二十二歳にならせ給ふ三皇子が在はしまするが、チ親王は卽ち最年長の皇子であります。暹羅の皇位繼承者は必らずしも長子たることを要さない、つまり、皇帝の自由選定に任せておくのですが、チ親王は天禀賢明に渡らせ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

られるに至るご申すことでありますから、此新帝を迎ひ得るは、故老帝を喪ひたる四拾五萬の巡羅國民にとつて不幸中の幸と申さねばなりませぬ。

▼米國の總選擧

米國の總選擧は去月八日を以て全國一般に行はれましたが、其結果は過去十四年間常に失意の境遇に沈んでゐた民主黨の大勝利に歸しまして、或は之を以て民主黨の奇勝だと呼ぶ者さへあるほどですが、此驚きの聲は敵も味方も共に發したものでありませう。多年共和黨が金城鐵壁と頼むだ紐育（此州知事撰擧の如何は即ち全局に大關係を有す、大統領の選擧に對する豫想も之で大抵目安が付くさ申されます此度は民主黨候補者ジョン・エ・ヂックス氏が約八萬の多數を以て共和黨のスチムソンを破りました。）マサチセッツ、コンネクチカット、ニューゼルシー、オハヨー以下諸州、皆民主黨州知事を出し下院に於ける同黨の優勢は、意外とも案外とも、五十一名の多きに達したといふことです。いかにしてかやうな變動を見るに至りましたか、其理由の二三を一應説明致します。第一には昨年の關税改革を上げねばなりませぬ。抑も保護主義反對は獨り民主黨のみならず、共和黨中にも之を主張するものがあつて、大統領タフト氏も之に鑑みて昨年の關税改革を企つるに至つたのですが、事實は豫想と喰違ひ、其低減項目は鋼鐵、材木、獸皮等にとゞまり、綿製品、絹、藥品以下、日常品で却つて増加した者が多く從つて物價も騰貴し生活上の不景氣を招いたので、共和黨内にも内訌を生じ、かの一揆派なる者を見るに至つた。今回の總選擧に於いて該關税法起草者ペイン氏が落選したのを見ても、此關税改革の失敗が延いて今日の結果に大影響の存することが諒解されます。第二には、前大統領ロオズヴヰルト氏の言動に關係する者で、ロ氏は主に急進的共和黨員に倚り、關税改正を首とし、各種の問題についても、總て彼等の意見に賛成してゐるやうに思はれて居つたのにも拘らず、實際其手に成つた紐育州共和黨宣言書を見ると、關税問題を以て寧ろ小問題となし、別に所謂新國民主義を標榜し之を以て自黨の旗幟となさうとしたのですが、この新國民主義は、一種傳説的に重大視せらるゝ大統領の權力を擴大する爲め、州權は勿論、大審院の權限をも縮少して、いはゞ、地方分權の強味を奪つて中央集權の基礎に加へやうとしたのです。然し之は米國の建國以來誇稱した平民的制度を根底から顛覆するが如き觀があります。之がロ氏の心事を誤解する原因の一でありますが、更に、ロ氏の操持が終始壓制的獨斷的に流れた嫌があり、殊に次回の大統領たるや否やについて明答を缺いた爲、不尠國民の疑惑を買ふに至つたので、元來米國大統領は再選を許すが、三選は之なしといふ先例になつてゐるのです。で、ロ氏が、今回選擧應援に東奔西走してロ氏式大活動を試みたが、其ロ氏の聲援した地方は大半失敗に了はつたといふのを見ても、此消息が明であります。國民は「ロ氏遂にウオタローを見たり」と評し去つたといふことですが、人氣ほど恐しいものはないと思はれます。第三には人心の漸く共和黨に對して嫌厭を生じたことです。新を競うて舊を去るが人情の常と見れば、これも致し方ないことであります。

總選擧の結果は、直接には米國政務上一の澁滯を來たすことに至りますが、間接には明後年の大統領選擧に影響があり、若し、民主黨が政權を握るとなれば、

之によつて諸外國に對する政策も其趣を變へて參りませうから、今回の總選擧は最大の意味がある者で、しかも最大の興味がありました。

▼現内閣の二大問題

何處も同じ秋の夕暮、桂内閣も關税問題で多少面喰づて居るやうに新聞で取沙汰してをります。つまり明治四十四年の條約改正が大事であるが、此大事の前に、關税改正案が輕々に昨年の帝國議會を通過し、既に法律として公布されたのですが、其税率の高低項目が、英國の利害と衝突する譯合ので、議會提出前一應英國内閣と内議を遂げなかつたのが、痛く英國上下の反感を買ひ、日英同盟繼續不可能説さへ唱へらるゝに至つたのです。若し英國の異議を是認するとなれば勢ひ既に法律で定められた或種目の税率を低減することゝなり、つまり條約上の讓歩が延いて法律の威信を毀損するに至る譯合であります。それならば、此問題は政治上の責任問題たるに至り、現内閣の存立を危うすることになるかも知れませぬ。次に、現内閣は成立以來國債整理を以て其政綱の眼目とし、いはゆる非募債主義と申して、舊債償却のために低利の借替をこそなせ、新事業に投資するため、新國債を起すといふことは絕對に差控ゆることゝ致し以て其財政上の信用を中外に維ぐ政策でありましたが、此度、此在來の政策を一變し、鐵道公債二億五千萬圓ほど募集するといふことですが、此資金は新橋下ノ關間、千餘哩の鐵路を改良して廣軌式となさうとするのであります。募債の是非はさて措き、廣軌式に換ふることが朝野識者の反對する有樣となつてゐますが、日本の如き貨物の出廻少き島國では之に由つて輸送力が增加するといふことは俄に斷言しかねるのみならず、其他枝線との聯絡が圓滑を缺き、ために却つて意外の冗費を要するに至るといふのです。

▼清國の政局難

資政院は立憲制、實施の準備機關として豫修の目的を有して居るといふことは、既に讀者諸姉に報じておいたのですが、愈開會して見ると、倫貝子殿下の議長振りなど仲々美事なものですが、各議員も相應に活動してゐるといふことは情報の齎らすところで、淸國憲政の前途大に祝すべきことであります。然るに其進行中國會速成の上奏をなし、攝政王も輿論の趨くところを察し、故光緒皇帝の遺詔にもあるが如く、國會は宣統九年に設立する筈であるのを、更に繰上げて宣統五年(明後年)となしたるに、折角の繰上期も速開請願者を滿足させず、最近に至つては憲法の欽定に關してすら不服の聲が發せらるゝやうになりました。

淸國も財政問題で行き悩んでゐる。何國も臺所向が不如意勝であるのは仕方ないとしても、淸國の近事は流石に寒心すべき者で、つまり淸國人は個人としては隨分商計に富んでゐるが、之に由つて淸國人が飽くまで堅實なる財政家となすの結論は多少變更を加ふる必要が認められてまゐりました。といふのは、元來淸國ほど幣制の雜然たる國はない、各省、各郡縣、甚しきは各都府で夫々異つた貨幣が行はれてゐて、而も本位制も確定しないから前の相場で貨幣の價値に異同があり、之がために貨幣の相場を目當てにしてゐる鞘取商人もあるといふことです。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

去月十六日の北京發電によると、各省總督巡撫が其省の豫算案に歳入の部を設けざるに付、各地方諮議局は資政院に問ふ所ありしに、院は之に答へて、本年度豫算の不足は合計五千萬兩の多きに達し、その塡補は冗費の節減をするより外他に良策がない、と。噂さに據れば、米國資本家團は五千萬弗の借欵を他の英獨佛三國のシンヂケート(投資團體)と共同して分擔しやうとしてゐるさうです。が、實際歳入の不足額は精算すると一萬兩以上だといふから折角の五千萬弗も、いはゆる燒石に水であるかも知れませぬ。歳入塡補のため借金ほど不利で且割の合はぬものがない以上は、淸國の當局者が此處戒心一番すべきときでありませう。

▼南極探險隊乘船「開南丸」の出帆

後備陸軍輜重兵中尉白瀨矗氏の發企にかゝる南極探險の壯圖も種々なる故障の下に荏苒今日まで出帆の運につかなかつたのですか、今回愈々郡司大尉の報效義會所有の「第二報效丸」を讓受け、東郷大將に請うて「開南丸」と改名し、總員十七名を乘せて南極探險に赴くことゝなり、十一月廿八日を以て東京灣を拔錨する豫定でありますそうです。英國のスコット大佐も既に六月十五日を以て南へと志したのですが、願はくは日章男兒の探險氣質が此一行によつて遺憾なく發揮せんことを祈ります。

▼文豪トルストイ伯の長逝

世界の偉人、現代の文豪トルストイ伯の最後こそ近來絕ゑてない好奇心を惹き起させました。

翁が八十二歳の高齡を以てして、何處かへ隱遁し一時其行衞が不明になつた。で老夫人も悲嘆の餘り二回までも自殺を企てたといふ飛電がある。其後翁はさるところより又々行先きを變やうとして或る停車場に着くとそこで宿患重もり遂に長逝したといふ訃音が傳へられたのに引き續いて其訛傳であるといふ路透電報が來た。が遂に十一月二十日午前六時を以てその寒驛に於て長逝したといふ確報に接しました。一體、翁の住所はロシヤの舊都モスコーの南百哩、ツーラー縣ヤスナヤポリヤーナといひ、其母上の所領であつて、翁はこの土地に生れ育ち、この土地に老後の閑居を營んでゐたのですが、今回其隱遁した所はコゼリスク曠野に在るスモレンスクと申して、翁の住所から僅か二三時間で行ける所でありますが、其修道院には翁の豫て敬服してゐた姉君マリア●ニコライウナが現に修道してゐる處です、翁がいかなる動機からしてこゝに赴いたかは他人の知りやうもないことですが、この修道院に修道士として入るには柔順、貞操無私慾の誓が絕對に必要であるといふからには、翁は賓客分として待遇さるゝ筈であつたとおもはれます。然し、翁が豫て攻擊して居つた此敎會附屬の修道院に入つたのも矛盾のやうですが　亦修道院が敎敵として見て居た翁を入れたのも可笑いことである。これはつまり兩方で讓り合つた結果かとも云ひませう。長逝の際「世には數百萬の困める人々あるに、何のために予一人の傍にかくも多く看護するか」といふ同情のこもれる遺言を發して、天上界に向つた老文豪の偉大なことはお互に讚美せずにはゐられませぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

隨感

今少し遠い所に着眼せよ

安井哲

我々婦人は概して狹い世界に住んで居りますから、着眼點が餘り近過ぎ、時とすると、利益とか幸福とかいふ大きな問題までも、自己か又は自己近親の者にのみ限つて考へる場合が少くありません。我々日本婦人は、吾國の發展と共に、近來は西洋の婦人と對照せらるゝ樣になつてまゐりましたから、今後は個人の利害問題よりも日本婦人としての利害問題を考へる樣に致したいのであります。しかすれば、我々は多數婦人の爲めに、自己の便宜や幸福を犧牲にする場合も多く、又所謂「緣の下の力持ち」をせねばならぬ場合も澤山ありませう。幾分か教育も受け、比較的世の中の經驗も積んだ吾國婦人は、今少しく大人らしい考を出して、小さな利益問題や、それほど價のない功績問題や、權利問題などの爲めに婦人同志小競合をなすといふ樣な、子供らしい事を止めて、今少しく吾國婦人全體の發展の爲めに働きたいものであります。即ち若何か他人の爲に利益になつた事があれば、假令自分が爲したといふ事が他人に知られずとも、或は又其れが誤つて他人の功と認められても、充分に滿足して居る樣な心狀で、何事をも爲したいのであります。此爲す事の多い中に、吾々婦人も、微力ながら出來る丈、吾國の發展を助けねばなりませんから、同性同志の爭や、異性互の爭などをして居るどころではありません。少しでも團體の爲めに利のある事、吾國の爲めに益のある事は、喜んで盡力すべきであります。現時に於て、吾々婦人の第一缺點と見るべき者は、自己本位であるといふ事で、婦人會で會員互に眞の團結が爲し難く、且又眞に、他人の爲めに有益な事業を企て難いのは、即之れが爲めで、吾々は成るべく意見の異つた人と仕事を共にし、充分議論を戰はして、其仕事の爲めに、最利益ある説を撰ぶ事が必要であります。之れは獨其仕事の爲めのみでなく、自身の度量を大きくし、精神修養をなすためにも、缺くべからざる心狀であります。

夫婦同化の眞義

▲家庭は人間活動の發源地であるとは、西哲のいうたことでありますが、この數語の中に人の一生の色彩が宿つてゐると思ひます。生き甲斐ある人間として、人らしい活動を分相應になし遂ぐるか如何かは、つまり、家庭の實際で判斷が出來ませう。學識才幹兩つ乍ら備はつた天晴の俊秀も、若し一朝家庭の係累のために、一生頭角を表はさずに終はつたならば、いはゆる此世乍らの天國たる家庭も、その人にとつては、墓場であり、埋葬地でありませう。

▲家庭は天國であると申します、其意味はと推し極めて見ると何を云ふか、即座に答へられませぬ。私は家庭の天國だといふことは、一家が好意と聰明と同情とを以て生活し、互に隔心なく、障壁なく、

一家の團欒をなすところと思ひますが、然し、實際はなかなか然うはまゐりませぬ。

▲何故かといへば、さる人も申されたように、一家がごたつくのは、父母兄弟姉妹が、互に他を自分よりも優つたものと思へば、そこに謙讓の美花が咲き合ふわけだから、其代り、嫉視とか、怨恨とかいふ雜草は愈々色褪せてなくなることでありますけれども、自分が優者であると思ふよりして、互にその非をたゝへて止まないやうになるのであります。

▲然るに、こゝに鳥渡誤り易いところがあります。世の中で夫婦の同化と申すことが、家庭の基礎であると云ひ囃されてゐますが、然し、夫婦の同化といふことは、必らずしも　性格や趣味やが同化するに限つた事ではない。私一己の管見よりすれば、その性格も趣味も人間以上の靈能で溶合されたものでなければなりませぬ。もし下賤な趣味を有し、卑陋な性格であつたなら、それが同化したところで何になりませう。蛙の子は蛙です。私はこの意味で夫婦の同化といふならば、其家庭は必らず呪はれたものゝ一であると申したい。

▲こゝで實際問題として、信者同士の結婚は先づ扨て措いて、夫婦の中何れか未信者なる時は、如何するか。私はかういふ實例を知つて居ります。夫は非常に篤學な、そして信仰もある有爲の青年ですが、其新夫人が未信者です、ところで或友人が忠告して洗禮を受けさしたら如何だらう、神と結婚するのが先決問題だというたとき、良人先生、曰く、おれの手で敎養して見せると至極納りかへつた返事をしましたが、結婚後十年の今日に至つては、敎養する所か、敎養されて了つて、今では、良人が妻君の惡感化を受けて如何にも手のつけられない有樣であります。いはゆる夫婦の同化の低級なものゝ一であります。

▲それから、かういふ例があります。良人が少々懷具合がよいので濫費する。妻君は男ばかりの天下ではあるまいと云うて、矢鱈に贅澤な身仕度をしたり、觀劇三昧に耽つたりして得意がつてゐる。これも夫婦の同化かと云ひたくなるものゝ一であります。

▲更に又かういふことがある。良人が遠國へ出かけてこゝ二三年の間歸宅しない。良人が發途に臨み、留守中は嘸淋からうから、何なり氣晴しの出來ることをするが可いというたからとて、毎日毎夜數人の子供達を下女任せにして内を外にして物見遊山に精出さるゝ令夫人もあります。子供の相手をして良人の留守を預るのは「嘸淋しいことであらう」か。良人の同情ある言葉を口實として、大切な子女敎育を無責任な女中風情にまかしてゐるのが、夫婦の同化といふものでせうか。

▲此等の三つの實例は、良人に同情があつても、妻君に聰明が缺けてゐたり、或は良人も妻君も共に之を缺いてゐることより、家庭の土臺がぐらついてゐることを語つてゐる事でこんな例は世の中に幾らもあらふと思ひます。良人の同情ある言葉の裏を辿つてゆく聰明の力が妻君にあつて、良人こそ知る人も少い他國の空にさすらひの身となつてゐることを思はゞ、どうして自分のみが淋しい感じを有つなどゝ夢にも思はれないでせう。良人が男であり、男ばかりの天下であるまいとおもふのは、女性のさもしい方ばかりを表はして居ります。良人も女房も皆

「人」だと思ふたなら、どうして、競爭して家庭の破壞運動を助くることが出來ませう。若し、妻君が眞に「人間以上の靈能」と交通して居るなら、或は同じ思ひを東と西に分けて、眺むるけふの月で、身はたとひ東西其處を異にしてゐやうが、同じく「人間以上」の靈能と偕にゐるから、一向淋しくないばかりか、却つてたのしい事だらふと思ひます。或は又、良人の善道に立ちかへる樣にとひたすら、其身だしなみに心を用ゆべき筈であります。妻君が眞に「人間以上の靈能」と同化してゐるならば、それこそ女ばかりの天下であるまいと、一念、良人が「人間以上の靈能」と同化するに至るべきを祈らずにはゐられますまい。

▲家庭の根基は夫婦の同化であり、夫婦同化の根基は「人間以上の靈能」と同化することであります。かくして、家庭が初めて人間活動の發源地であるといひ得ることであらうかと思ひます。

多忙なる生活

▲自己の職業生活が非常に多忙で、朝から晩迄ちよつとも餘裕のない人によりて經營せらるゝ家庭は一面頗る生氣に充ちて居る樣に見える處がありますけれども、各人の心裡に立入つて觀察して見ますると、何處か不足な不滿な慊らぬ處がありはしまいかと思はれます。從つて之が爲めに一種の寂寥の淡い陰が全家庭を蔽ふて居る樣に見受けられます。

▲世の中が益々世智辛くなるにつけ、各人の生活は益々多忙を極むるに至るのは止むを得ない事で、否寧ろ當然の事で御座いませうが、そうなればなる程吾々は多忙が齎らす種々なる不便利不滿足を甘く避けて行く工夫をする事が必要な事と思ひます。

▲交友の間位なら、先でも多忙だといふ事を熟知してゐて呉れますから、二月三月相見ずに居りましても、それが爲にどうと云ふ事も御座いますまいが、自己の家族にも親しく會ないと云ふ程の生活は、忌憚なく申しますれば、確かに呪はれたる生活と申して差支なからふと思ひます。

▲私は現にかう云ふ例を知つて居ります、私の知人で某會社の重役で何不自由なき處か非常に豐な生活をして人でありますが、その忙しい事と云つたら私共の考にも及ばない處なので御座います、夜は大概十時過ぎでなければ歸宅する事が出來ず、朝は寢て居る中から電話で起されて出勤前には必ず二三人の訪問客に襲はれる、偶の日曜は平日に倍した忙しさで、朝から一度家族と共に食事をする時間がないと云ふに至つては誠に慘憺なるものがあります。

▲それで一日に一度でいゝから小兒を相手に食事をしたいものだと述懷せられた事を聞いた事ですが、之は自己の職業上避く可らざる處で、從て實業界の方面に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は其人の名聲價値は大に揚り行く事て御座いませうが、併し家庭の側から考へて見ますと、容易ならぬ缺陷を發見するのであります、即ち其家庭の小供は「お父樣」を見たり或は親しく語る機會が少いから父親の愛情に非常に渇してゐて、常に「つまらない」と云ふ不滿を消す事が出來ないのであります。

▲私はかゝる家庭に於て母親のみに任かせられたる兒童の敎育が必ずしも危險だと申す者ではありませぬ、母親の所理にして適當でありますならば、此間の缺陷はさしたる影響を與へないと致しましても、兩親直接の慈愛の目が隈なく行き渡つて居る家庭に比較しますれば、小供の小さなやさしい心情の開發生長の度は必ず多少の差なくしては止まないであらふと思はれます。

▲私は激甚なる人生々活に沒入して奮鬪しつゝある人の家庭を思ひます每に、かゝる人は何等かの方法を以て此等の缺陷を補ふ擧に出でられなければ長い間には其缺陷は大なるものとして表はれるだらふと思ひます、それにしても日本の習俗が日曜日の意味を公生涯の、而も其一小部分にのみ適用して、自ら限度なき紛糾と多忙とに呻吟して居るといふ事は實に愚と云はねばなりません。（一記者）

新刊紹介

◉小公女

定價金壹圓

藤井紫一譯　聚星堂發行

吾國讀書界に歡迎せられ、今猶ほ歡迎せられつゝある「小公子」の著者バーネット女史が其姉妹篇として書いたエ、リトル、プリンセスを譯したゝものです、「小公子」に劣らぬ可憐な話なれば一般讀者界より歡迎を受くる事「小公子」に劣らぬだらふと思ひます、坪內博士は序文に「若松女史のに比して遜色なき好譯筆」と保證しておゐでになります、釘裝も極めて美麗ですから、クリスマスの贈物として恰好のものだらふと思はれます。

◉家計家

定價金四拾錢

羽仁もと子編　婦人之友社發行

家政の方面に於ける羽仁氏の造詣の深き事世既に定評ある所で、本書は氏が多年實驗の結果案出せられたるもの賄費衣服費交際費教育費家具費等仔細の項目に分ちて記入する樣に出來て居ります、月始に其項目に豫算額を割當てる項がありますから月末の總計には剩餘不足は直ちに計算するが出來、副食物だけは一日一日の豫算を日割にして記す樣になつて居ります。

◉日曜文庫 母のゆくへ

定價金參拾錢

百島操譯編　內外出版協會

母のゆくへ、勇ましき少年、親の病氣、賞牌授與式、難破船、子供心の六編を收めてあります、すべて皆面白い敎訓的のものでありますから兒童の讀物として又は日曜學校の敎材としては至極適當なものであります。

◉新簿計簿

定價金四拾錢

家庭の友編輯局案、內外出版協會發行

一前家計簿と體裁內容も似よつた書でありますが、違ふ處は其月分の日計表があつて其日々の收入支拂殘高を記入する樣に出來て居る事と、其月の費目を賄費衣服費等に分けずに、自分で何々費と分類記入する樣になつて居る事です、前二書とも一家の主婦にとりては必要缺く可らざるものでありませう。

◉實用家計日記

定價金三十五錢

作治實然案　內外出版協會

之は前二書と比べると簡單で、日付收支金高符牒摘要と分れて居るだけです、決算表は一まとめになつて卷末に附いてあります、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

編輯だより

△間もなく、今年も暮れようと致して居ります。毎度の事で御座いますが、かう年の瀬に立つた心持ちは、誠に痛ましい回想に伴ひますのが遺憾で御座います。あれもこれもと今日迄思ひ續けてまゐりましたいろ／＼の計劃が、其儘手もつけられずに殘つて居るものが澤山ありますのを顧みましては、出來るなら時間の進みを堰き止めたいと思ふ心が一杯で御座います。

△本誌の事に就きましても主幹主筆初め編輯員に至ります迄、寄るとさわると、あれこれと少しでも改善の實を擧げて、讀者諸姉の御愛顧に酬ゐようと相談も致し計劃も致して今日に至りましたが、思ふ事叶はればこその慮世とやら、何程の事も爲し得ませんでしたのは誠にお耻しい事で御座います。夫にも係らず。讀者諸姉の御同情の偏に厚きは私共の深く感謝する處で御座います。

△それで色々相談をしました結果、本誌の外形内容に一大刷新を加ふる事となりました。即ち從來の四六倍版を改めまして、菊版と致しますから　體裁もよく携帶にも便利となります、表紙畫は目下有田畫伯が專念構案中で御座いますから、新年早々洒滅なる新裝を以て讀者諸姉の御手に入る事と信じます。發行期日も嚴格に守りまして遠隔の讀者諸姉も毎月一日には御入手になる樣に致したい覺悟で御座います。

△從來は十二月を以てクリスマス號を發行してまゐりましたが、クリスマス迄は殆んど一ヶ月の間が御座いまして餘りに早きに失する嫌がありますから、之からは正月號を以てクリスマス號とし、十二月廿二三日頃に發行致す事となりました、其方が却つて興味が多い事と信じます。

△其爲め正月號の原稿は本月十日に締切らねばなりませんから、御投稿の節は何卒同日迄に御郵送を願ひます。

△原稿は總て東京牛込區喜久井町二十二番地大塚尚宛御送を願ひます。

本誌定價｛一部金拾錢（郵税ナシ）◎六部半年分前金六十錢（郵税ナシ）◎壹ヶ年分十二部前金壹圓拾錢（郵税ナシ）

外國行定價｛壹部金拾四錢（郵税ナシ）◎半年分前金八拾錢（郵税ナシ）（一ヶ年分前金壹圓六拾錢（郵税ナシ）

廣告料				
行廿七字詰	四分ノ一頁	半頁	一頁	内表紙拾二圓
金廿五錢	金三圓	金五圓	金拾圓	外表紙拾八圓

●本誌代金は總て前金に御拂込み被下度候

●郵劵代用は一割増の計算にて御送附被下度候

御送金は振替にて拂込るゝ方便利に候。但手數料金壹錢御加へ被下度候

通信、爲換、寄贈雜誌等は必ず左の宛名に願上候

東京市小石川區林町四十三番地

新人社事務所

振替貯金口座一四〇〇五

明治四十三年十一月二十九日印刷
明治四十三年十二月一日發行

發行兼編輯人　東京市小石川區林町四十三番地　海老名彈正
印刷人　東京市小石川區小日向臺町一ノ二六　相原一郎介
發行所　東京府下豐島郡巣鴨村大字巣鴨六百六十一番地　新人社
印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　審泰活版所

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦女界

新年號の豫告

眞面目な信者の

皆さんの家庭に於てはドンナ雑誌を御覧なされて居ます。又讀書欲の熾んな青年婦人のためにドウ云ふ雑誌を與へて居られますか。讀書欲を抑制することは反つて惡弊を來します要はたゞ**善良なるものを與へて之れを善用し其生涯を意味ある**ものとなさしむるにあると思ひます。敬虔にして常に家庭と婦人とに同情を有たれて居る**羽仁吉一氏**と**同夫人もと子女史**は新年號からの『婦女界』にその力を竭されることをなりました。其の雑誌の主義とする所は。現代の輕薄なる雑誌界の惡風潮を打破して眞の意味に於ける雑誌の使命を發揮しようとするのであります。**質素の生活に高き理想**を有てる新時代の家庭の人が讀んで實際役にたつと言はれるだけの雑誌を新年から皆さんの家庭におすゝめ申します。然らば新年號の内容はどんなものかは皆さんの必ず心に浮ぶ疑問でありましやう。これを解くために詳細なる目次を掲げたいけれども時機の早きを恐れますから今日はたゞ我々の**眞面目なる努力**がどれだけのことをなし得るかを新年號に於て御覧を願つて置きます——皆さんの清き家庭の人が讀むべき唯一の婦人雑誌とは我が「婦女界」のことであるとをのみを斷言します。

家庭に特に白す

お正月に皆さんの御宅で一番好評を博する

結婚雙六（けつこんすごろく）

結婚を振り出しとしたるもので人生の波瀾起伏を面白く仕組たるもの

を新年附錄として添へます＝横二尺六寸竪一尺八寸

一冊金拾五錢（郵税一錢五厘）

東京神田 同文館

入會者日々數百人

速に入會せよ

手藝は家庭の經濟上のみならず國家を豐富ならしむる原動力也

共立女子職業學校 櫻友會内 女子手藝普及會編

女子手藝講義錄

會員募集

萬里の外にある婦女にも少額の費用を以て家庭を飾り生活上の要具を拵へる最新智識をも完全に實習し得るものは本會の講義錄あるのみ獨り世界の技術と時の流行と斬新の考案とを最新式の説明法に依り如何なる少女にも解るやう總振り假名を以て講述しあり

講義課目

- ▲裁縫科 和洋各種
- ▲編物科 各種
- ▲組糸科 各種
- ▲刺繡科 各種
- ▲袋物科 各種
- ▲造花科 草花果實
- ▲細工物科 各種
- ▲割烹科 和洋料理
- ▲手藝圖畫科
- ▲科外講義 數種

質疑

會員の質問に對しては懇切に應答す

會費

普通科		高等科	
壹ケ月	金參拾錢	壹ケ月	金參拾五錢
半ケ年	金壹圓七拾錢	半ケ年	金壹圓九拾九錢
壹ケ年	金參圓貳拾四錢	壹ケ年	金參圓七拾八圓

圖解入

彩色石版書及鮮明なる
木版書十個入

普通科 一ケ年修了 高等科

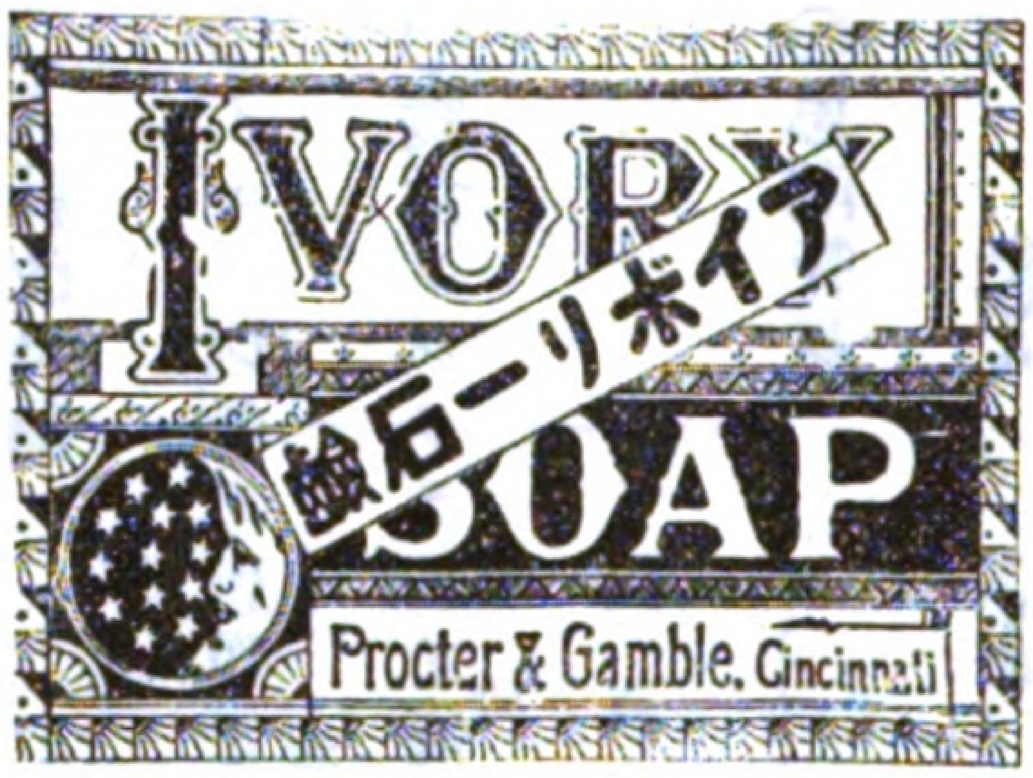
進呈

入會規定 内容見本

何人と雖も非常の速度を以て完全に理解し得るなり

入會申込所 東京日本橋角 大倉書店 電話本局四一四番 振替東京二三八番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



日本輸入品に限り包裝紙に斜に「アイボリー石鹸」と記入し一見模造惡質石鹸と判別に容易ならしむ

御購求の節「アイボリー石鹸」に御注意を乞ふ

移轉廣告

今般都合により左記に移轉致候に付き一切の要事は爾今同所宛御願申上候

明治四十三年十一月一日

東京市小石川區林町四十三番地

新人社事務所

新女界前號(十一月號)目次

●獨立と調和……安井哲子
●湯臺叢話……理學士 谷津直秀
●現代婦人の覺悟……海老名彈正
●祈禱の力……女子大學講師 村田勤
●ゆきあたりばつたり集……文學士 内ヶ崎作三郎
●秋の空……文學士 無繫生
●獨り子の教育に就て……海老名みや
●イマヌエル行……田澤藤郎
●獨力よく一町の信仰を支へし老婆……鹿子木つや
●十四年ぶりの旅路日記……海老名みや
●摘草集(新聞雜誌瞥見)……
●時事其折々
▲葡萄牙の革命▲戰艦「河内」の進水▲工場法案の發表▲波斯の騷亂
●隨感
▲目前の利害を超越したる生活……女高師範講師 小此木松子
▲後れ行く母親……大塚楠男
●神戸に於ける婦人信徒大會……三宅夏子
●編輯だより

新人十二月號目次

◎社說
○教界の惰氣　海老名彈正
◎教壇
○靈界の飢饉　海老名彈正
◎想苑
○人種改良論　原口竹次郎
○イエス以前の思想と基督教　額賀鹿之助
○賢哲ソクラテスと修學の要諦　文學士　川島金五郎
○思潮管見　文學士　三井北川

◎聖書研究
○馬可傳　海老名彈正
◎東都講壇
○故大西博士十週年追悼會
△東西思想の根本　姉崎博士
△理性の權威　金子馬治氏
◎評論
○教派合同問題に對する諸先輩の開書應答
◎時評
○教派合同問題懇話會　鈴木生
○偉人杜翁逝く

發行所　東京小石川區林町四十三番地　新人社　振替口座一四〇〇五

院長診察、月、水、木、金、午前入院、診後應需
松田、林、峰岡三副長ハ目下當院ニ在勤、
電 本 八八八番（病院用）八九八番（私宅用）

東洋内科醫院

東京神田區駿河臺鈴木町二番地、御茶水橋附近

院長 醫學士 高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎町相海濱、從停車場中里
電 チガサキ二番

南湖院

河野、高橋兩副長ハ目下當院ニ在勤、
院長診察、土曜日午後入院、診後應需、

看護婦志願者募集

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

毎月一日一回發行

明治四十二年三月廿九日第三種郵便物認可

本誌愛讀者諸君は

ライオン齒磨を使用したる後啻に口中の爽快を覺ゆるのみならず諸君の齒牙が如何に光澤を有し如何に健強となれるを知りや

ライオン齒磨を用ゐたる時の口中の爽快さ齒牙の清淨さは恰も入浴後に覺ゆる快感に等しきなり

家庭用

美術大罐入

最も御徳用向

體裁優美にして正味頗る多量而も價格の廉なるが故に家庭用として好評嘖々たり

（定價　壹個　金廿五錢）

◎試用見本御入用の方は振替貯金又は郵券代用にて申込あれ直ちに郵送す

發賣元　小林富次郎

東京市神田區柳原河岸

振替貯金口座東京二五二六番

支舖　大阪市東區博勞町　清國天津　漢口

明治四十三年十二月一日發行第貳巻第拾貳號